

中野正剛著作目録

松田 義男 編

改訂 2024 年 4 月 27 日

2003 年 5 月 4 日

凡例

- * 「1. 著書」、「2. 共著」、「3. 評論等(新聞・雑誌掲載)」、「4. 帝国議会衆議院演説」とに大別し、それぞれ年次順に配列した。
- * 未見の著作については*を付した。
- * 新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- * 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- * 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。その他、編者の注記は適宜[]で示した。
- * 掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- * 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。
- * 中野正剛のペンネーム(「戎蛮馬」、「浩洞迂人」、「耕堂」、「耕堂迂人」、「二十六峰外史」)については、〈 〉に示した。雑誌目次と本文の署名が異なる場合、原則として本文の署名を採用した。本文無署名で目次に署名がある場合は目次の署名を採用した。
- * 『我観』、『東方時論』の時評については、詳細を【 】に示した。

本目録作成にあたっては、NHK 放送博物館、茨城県立図書館、大阪市立大学学術情報総合センター、大阪府立中央図書館、同中之島図書館、関西大学総合図書館、九州大学附属図書館、熊本県立図書館、群馬県立図書館、慶應義塾大学三田メディアセンター、県立長野図書館、神戸大学附属図書館、国立国会図書館、金光図書館、三康文化研究所附属三康図書館、島根県立図書館、昭和館、玉川大学図書館、東京大学総合図書館・社会科学研究所・社会情報研究所・法学部附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫、教育学研究科・教育学部図書室、同志社大学今出川図書館、東洋文庫、名古屋大学附属図書館、成田山仏教図書館、日本近代文学館、日本大学総合学術センター、福岡市総合図書館、立教大学図書館、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

- 『八面鋒 朝野の政治家』博文館、1911年10月28日
- 『明治民権史論』有倫堂、1913年3月30日〔復刻：葦書房、1994年〕
- 『七擒八縦』東亜堂書房、1913年5月13日
- 『我が観たる満鮮』政教社、1915年6月1日〔小島晋治監修『大正中国見聞録集成 第1巻』（ゆまに書房、1999年）収録〕
- 『世界政策と極東政策』至誠堂書房、1917年2月13日
- 『世界改造の巷より』東方時論社〔非売品〕、1919年4月10日
- 『講和会議を目撃して』東方時論社、1919年7月23日
- 『現実を直視して』善文社、1921年2月16日
- 『満鮮の鏡に映して』東方時論社、1921年3月15日
- 『露西亜承認論』〔3月20日演説速記（於第46帝国議会衆議院）〕東方時論社、1923年5月25日
- 『中野正剛対露支論策集』岡野竜一編、我観社、1926年4月5日
- 『田中外交の惨敗』平凡社、1928年12月17日
- 『国民に訴ふ 中野正剛大演説集』平凡社、1929年4月5日【我等は斯く戦へり〔1928年2月24日（於朝日講堂）〕、孫文君の去来と亜細亜運動〔1925年1月〕、錦旗を草莽の間に建てよ〔1928年11月13日〕、対支重大問題の一問一答〔1929年1月25～27日（於帝国議会衆議院予算委員会）〕、田中外交の責任解除〔1929年1月30日〕、対支政策の更新〔1928年7月31日（於九州劇場）〕、南洲翁五十年祭典に臨みて〔1927年10月24日（於鹿児島市）〕、立憲民政党の本領〔1928年7月〕、西伯利撤兵論〔1921年2月5日於第44帝国議会衆議院〕、国民感情の握手〔1925年10月（於北京憲法起草委員俱樂部）〕、白虎隊の墓を弔ひて〔1928年8月30日（於津飯森山下）〕、枢密院彈劾演説〔1927年5月7日（第53帝国議会衆議院）〕、亡友の骨枯に對して〔1925年2月22日（於青山齋場）〕】
- 『国家統制の経済的進出』平凡社、1930年7月15日
- 『沈滞日本の更生』千倉書房、1931年8月1日
- 『安達さんの心境を語る』千倉書房、1931年12月30日《伊豆豆人》
- 『転換日本の動向』千倉書房、1932年1月30日
- 『日本の動向』〔5月7日青山学院高等学部学友会経済学研究部主催講演会於青山学院講堂〕＜『中央講演』第2輯＞東京中央講演会、1932年5月25日
- 『駒井長官を迎へて満洲国即時承認を高調す』東京講演会、1932年8月10日
- 『国家改造計画綱領』＜東方会叢書 第1輯＞千倉書房、1933年10月28日
- 『帝国の非常時断じて解消せず』＜大毎講座1＞大阪毎日新聞社編、大阪毎日新聞社・東京日日新聞社刊、1934年3月13日
- 『政党政治の再建』農芸社、1934年6月25日《耕堂学人》
- 『現状崩壊の過程と積極健全政策の提唱』＜『我観』13-1別冊附録＞我観社、1935年1月1日
- 『日本国民に檄す 北支風雲の煙幕を透して』我観社、1935年12月25日

- 『日本拡大強化論 講演速記録』日本講演協会、1936年3月25日
- 『昭和維新と官僚政府の役割』秀光書房、1936年8月18日
- 『電力国営案に対し中野正剛氏所信を明かにす』電気連合通信社、1936年8月29日
- 『支那をどうする 日支問題を如何に解決すべきか』今日の問題社、1936年10月18日
- 『中野正剛氏大演説集』朝風社、1936年11月21日【国家改造の指標[1933年11月2日東方会大演説会(於日比谷公会堂)]、日本拡大強化論[1935年11月12日早大主催時局大演説会(於大隈講堂)]、聯盟脱退に直面して[1933年2月21日国民大会(於日比谷公会堂)]、非常時は解消せず[1934年1月25日(於第65帝国議会衆議院)]、満州事変直後の政変観[1932年1月15日国民同盟演説会(於日本青年館)]、国民感情の握手[1925年10月(於北京憲法起草委員倶楽部)]、統制経済と非常時国策[1936年夏(於国民新聞社主催座談会)]、満州国即時承認を高調す[1932年8月2日駒井満州国総務長官歓迎会(於東京会館)]、南洲翁五十年祭典に臨みて[1927年10月24日(於鹿児島市)]、東亜民族の一大結成[1932年10月5日(於国民同盟本部)]、東洋の支柱、日本[1936年9月10日東京日日新聞社主催渡辺、深川両氏追悼会(於日本青年館)]】
- 『支那は極東のスペインか? 对支外交再検討の秋』東大陸社、1936年12月29日[「付」として「積極日本主義こそ革新諸政策の基調」を収録]
- 『積極拡大主義の危険性と合理性 中野正剛君議演説』東大陸社、1937年3月5日
- 『日本は支那を如何にする』育生社、1937年11月15日
- 『伊・伊より帰って日本国民に訴ふ』[独伊訪問帰朝報告演説会(於日比谷公会堂)]銀座書房、1938年3月25日
- * 『伊・独両元首との時局論争』[日本外交協会第242回例会]日本外交協会、1938年3月
- 『魂を吐く』金星堂、1938年5月10日[改訂増補：振東社、1940年]
- 『真直ぐに行け』育生社、1938年5月20日
- 『对支国策の根幹を論ず』東方会西日本支部、1939年7月10日
- 『時局打開国民運動講演速記録』[7月5日講演於湊川公園市立勸業館]時局海上協議会事務局、1939年7月31日
- 『難局打開の経綸』東大陸社、1940年1月20日
- 『敗戦主義を打倒せよ』東方会、1940年4月5日
- 『日独伊三国同盟と日本の動向』振東社、1940年12月5日
- 『東方会の旗は進む』東京講演会出版部、1941年4月25日
- 『難局打開の体当り』[5月1日難局突破国民有志大会後援速記於国技館]東方会出版部、1941年6月10日
- 『難局突破の指標 新体制実践綱領』新東学社、1941年6月25日
- 『新しい政治の方向』東大陸社出版部、1941年9月5日
- 『ルーズヴェルト、チャーチルに答へ日本国民に告ぐ』東方会宣伝部、1941年10月5日
- 『此一戦 国民は如何に戦ふべきか!』東方会、1942年1月30日[「声明」、「国民は如何に戦ふべきか」(1941年12月17日総蹶起国民大会演説速記於国技館)、「此一戦」(『公論』5-1、1942年1月1日)収録]

『戦争に勝つ政治』 東方会、1942年3月25日[武蔵野書房刊、1943年]

『世界維新の嵐に立つ』 鶴書房、1942年4月20日

『太閤秀吉』 東方同志会出版局、1943年2月15日

『遺稿 建武中興史論』 正剛会、1953年11月20日

『玄南文集』 中野達彦・泰雄、1975年10月27日

刊行年未詳

『大東亜戦争下の東方会運動』 <国立国会図書館憲政資料室所蔵「中原謹司関係文書」1770>

2. 共著

妖僧ラスプーチン暗殺さる『阿修羅帖』第3巻、伊東忠太・杉村広太郎著、国粹出版社、1921年2月15日

外交及財政に関する質問(一月二十五日)『第四十五議会衆議院十大演説集』東方時論社、1922年5月5日

國務大臣に対する質問演説[2月24日衆議院]『第四十六回帝国議会貴衆両院大演説集』渡辺鬼子松編、帝国連合青年会、1923年4月18日

日露国交の精神的要素『露西亜承認論』東方時論社、1923年6月8日

東洋の愛蘭たらむ一大正十年二月二十五日衆議院一『帝国議会雄弁史』弘田勝太郎編、事業之日本社、1925年4月28日

労資問題『五分間模範演説集』東京雄弁協会編、国華堂本店、1926年9月20日[復刊：東京雄弁協会編『正しき演説』(大阪堂、1931年)]

挺身難に当るの心 南洲翁の五十年祭典に臨みて[1927年10月24日於鹿児島]『現代名演説集』<『雄弁』19-1別冊附録>大日本雄弁会講談社、1928年1月1日

[2月24日演説於第19回朝日民衆講座]『我等斯く戦へり 普選の第一戦陣』<朝日民衆講座第4輯>朝日新聞社、1928年3月8日

枢密院弾劾案の説明演説[衆議院に於ける演説]『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928年4月23日

立憲民政党の立場[政談演説]『明治・大正・昭和政界名士大雄辯集』箕輪要編・中野正剛監修、雄弁研究会、1928年4月23日

壇上に於ける自己表現『雄弁学講座 中巻』<改訂増補>雄弁学会編、潮文閣、1928年10月5日[『雄弁学講座 中巻』<改訂増補>(成光館出版部、1929年2月1日)、『雄弁学講座 全』<改訂増補・合本>(潮文閣、1929年8月10日)収録。6版(1931年11月3日)の復刻新装版：成光出版企画、1983年]

選挙第一主義の暴露『大衆政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編、文華堂、1929年3月10日[宗孝社、1932年2月1日]

雄弁は爆裂弾だ 真剣なる憂国の叫びが議会雄弁『議政壇上を直視して 附・第五十六帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

満洲某重大事件に関する一問一答『議政壇上を直視して 附・第五十六帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

鋭角的対立『再び政友会内閣出現せば日本は何うなる』民衆社、1930年1月28日

美辞麗句より内容[名士の演説苦心談]『演説の仕方と聴き方 附 政界名士演説集』青年雄弁会編、春江堂、1930年3月5日[改題『五分間演説の仕方』青年雄弁会編、春江堂、1935年3月5日]

日本経済界の再構築『甦生期の日本に呼びかける』民衆通信社、1930年11月10日

『如何にして農村を救ふべきか 農村応急対策座談会』東京日日新聞経済部編、創造社、1932年7月15日[6月11日、大阪毎日・東京日日新聞社主催農村応急対策座談会(於東京会館)：東武、有馬頼寧、内ヶ崎作三郎、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文夫、杉山元治郎、千石興太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠造、森恪、

矢作栄蔵、矢野恒太ほか]

処女演説の感想『五分間演説と挨拶』紀室公民著、興風書院、1932年12月10日

敢然として我往かん『時局大熱論集 熱烈火を吐く 敢て九千萬同胞に訴ふ』<『現代』14-4 別冊付録>
大日本雄弁会講談社、1933年4月1日

新興日本の指標『時局問題 非常時国民大会』<『キング』9-5 別冊付録>大日本雄弁会講談社、1933
年5月1日

我子を山に捧ぐー長男克明、穂高遭難の顛末記ー『日本山岳遭難史』春日俊吉著、三省堂、1933年5
月10日

教育の核心と実際化『井上先生追慕録』井上善吉編・刊、1933年6月25日

大亜細亜に立脚して『現代青年に与ふ』<『雄弁』24-8 付録>大日本雄弁会講談社、1933年8月1日

西郷南洲翁の心境[1927年10月24日講演於鹿児島市南洲翁五十年祭典]『現代名家大演説集』大日本雄
弁会講談社、1933年12月10日

非常時国家改造の動向[講演]『彙報別冊』66、全国経済調査機関連合会、1933年[12月]

力の外交『非常時国民全集・外交篇』中央公論社[非売品]、1934年1月1日

[短歌一首]『名士讃歌撰集 上』末次早代子編著、人物讃歌刊行会、1934年8月14日

日本の進むべき道『大雄弁名家演説集 面白くて為になる美談逸話格言俚諺警句百出』<『雄弁』27-1
付録>大日本雄弁会講談社、1936年1月1日

当局の猛省を促す[9月10日、東京日日・大阪毎日新聞特派員渡辺洗三郎、上海毎日新聞編輯長深川経
二追悼講演会於日本青年館]『危機線上の日支』東京日日新聞社・大阪毎日新聞社、1936年9月27
日

序『冀東綜覧』神田隆介著、東洋事情研究会、1936年9月28日

世界に於ける支那問題『支那経済事情講話』東京商工会議所編、森山書店、1936年11月12日

対支政策の改建と其の方途『日本経済の再編成 第一輯 総説篇』経済情報社編・刊、1937年9月12日

日独伊の提携を強化せよ[1937年11月演説於日比谷公会堂]『諸名家大熱弁集 起て!国家総動員の秋』
<『雄弁』第一付録>大日本雄弁会講談社、1938年1月1日

跋『日支事変外交観』(本多熊太郎著)千倉書房、1938年10月16日

日本外交の指導原理『全体主義政策綱領』中野正剛・杉森孝次郎編、育生社、1939年2月20日

金子雪斎翁と大陸経綸『大陸経営とその先駆者を語る』森田英亮編、金星堂、1939年2月20日[『評
判叢書 第一』(天佑書房、1940年)収録]

断乎・所信を貫徹すべし『英国を追放すー対英外交大演説集ー』報知新聞社、1939年7月17日

[9月11日演説速記(於軍人会館)]『新体制とは何か』<読売新聞社主催新体制大講演集>亜細亜出版社、
1940年10月15日

外交新体制[9月14日新体制問題講演会於日比谷公会堂]『新体制問題大雄弁録』新興之日本社、1940
年11月8日

諸君・黨制せよ[1940年11月20日講演速記(於中央公会堂)]『一億国民の真魂に懇ふ 大政翼賛運動の
本旨』大政翼賛運動実践会、1941年1月1日

諸君慕進せよ『大政翼賛運動の本旨 附・戦陣訓』東亜新聞大阪支社文化部、1941年1月1日

諸君慕進せよ『新体制処世雑話 大政翼賛運動の本旨』大政翼賛運動実践会、1941年1月1日

外交新体制[1940年9月14日新体制講演会講演筆記於日比谷公会堂]『新体制論』帝都日日新聞社、1941年1月22日

新体制の真髓『新体制国民読本 新体制早わかり決定版』大政翼賛宣揚会編・刊、1941年1月23日

日米関係の現在と将来『日米危機とその見透し』[政経懇話会叢書 第1輯]新経済情報社、1941年2月22日[第2回関西政経懇話会於大阪倶楽部]

ヒトラーとムツソリーニ『新体制処世雑話 護る銃後の戦陣訓』啓徳社出版部、1941年3月25日

新体制下の日本とナチス・ドイツ-皇道全体主義的指導原理の確立-『新体制下日本はどうなる』東亜書院、1941年4月3日

国民は如何に戦ふべきか[12月17日於国技館]『大東亜の聖戦 米英撃滅世界新秩序建設へ』国民新聞社、1941年12月23日

戦ひの理想『勝利の記録』国民新聞社、1942年2月28日

自己を活発に表現せよ[談]／映画にしてほしい菅沼貞風・徳富蘇峰[談]『名士、映画を語る』井戸川涉著、前田書房、1942年9月20日

日本青年に苦言す『大東亜建設論集』山口高等商業学校東亜経済研究会編、生活社、1943年1月30日 [1942年5月講演於山口高等商業学校東亜経済研究会主催第17回夏期講演会]

推薦の辞-当時を回想す-『清水芳太郎全集 第四巻』錦城出版社、1943年5月30日[増進堂、1945年]

総選挙と東方会[昭和17年収録]／米英撃滅を重点とせよ[昭和17年収録]／国民的政治力を結集せよ[昭和17年収録]『大正・昭和戦前期政治・実業・文化演説・講演集 SP 盤レコード文字化資料』日外アソシエーツ、2015年4月25日

3. 評論等(新聞・雑誌掲載)<995 篇>

1902(明治 35)年

*菊池寂阿公『修猷館同窓会雑誌』2、2月[『玄南文集』収録]

1903(明治 36)年

*修養論『修猷館同窓会雑誌』3、6月[『玄南文集』収録]

*西郷南洲の片影『修猷館同窓会雑誌』4、12月[『玄南文集』収録]

1904(明治 37)年

*南柯の一夢『修猷館同窓会雑誌』6、6月20日[『玄南文集』収録]

遠地の友に『修猷館同窓会雑誌』7、12月6日<なかの生>[『玄南文集』収録]

世の苦学生に与ふる書に擬す『修猷館同窓会雑誌』7、12月6日<なかの生>[『玄南文集』収録]

1905(明治 38)年

征露戦争に於て得たる偉大なる教訓と好時機『修猷館同窓会雑誌』8、2月23日[『玄南文集』収録]

遙に柔道部員及び新入生諸君に告ぐ[阿部真言との連名]『修猷館同窓会雑誌』9、6月28日[『玄南文集』収録]

早稲田の里より『修猷館同窓会雑誌』9、6月28日[『玄南文集』収録]

*西欧十九世紀の支配者『修猷館同窓会雑誌』10、11月[『玄南文集』収録]

1906(明治 39)年

*人材論『修猷館同窓会雑誌』11、2月[『玄南文集』収録]

1907(明治 40)年

*帰郷雑記『修猷館同窓会雑誌』14、2月[『玄南文集』収録]

*活動進取の快『修猷館同窓会雑誌』14、2月[『玄南文集』収録]

*西郷南洲手抄言志録を読む『修猷館同窓会雑誌』12月[『玄南文集』収録]

1908(明治 41)年

日南先生を懐ふ『九州日報』2月14日

*咳唾瓦礫『修猷館同窓会雑誌』2月[『玄南文集』収録]

1909(明治 42)年

- 清国憲政問題今後の予想『日本及日本人』506、4月1日<<浩洞迂人>>
- 清国に於ける立憲政治の価値『日本及日本人』507、4月15日<<浩洞迂人>>
- 土佐の民権婆さんと語る『日本及日本人』508、5月1日<<浩洞迂人>>
- 清国の立憲問題[「雑纂」]『東邦協会々報』173、174、7月20日、8月20日<<浩洞迂人>>
- 東北遊覧記『東京日日新聞』7月30日、8月3、5~7、10~13、15、22日[『知られたる秋田』(滝沢武編・刊、1909年)収録]
- 進歩党両派の融和『日本及日本人』520、11月1日<<浩洞迂人>>
- 読南洲言志録『心の友』5-11、12、11月10日、12月10日<<浩洞迂人>>

1911(明治 44)年

- 大俗公と大通侯『東京朝日新聞』5月17~20日<<戎蛮馬>>[『八面鋒 朝野の政治家』収録]
- 朝野の政治家『東京朝日新聞』6月1~21、23~30日、7月1~9、11~19日<<戎蛮馬>>[『八面鋒 朝野の政治家』収録]
- 対岸の火災『東京朝日新聞』12月18~22日<<戎蛮馬>>

1912(明治 45・大正元)年

- 孫黄両氏の風采『東京朝日新聞』1月7日<<戎蛮馬>>[「孫逸仙・黄興両氏の風采」と改題『魂を吐く』収録]
- 南京の白宮『東京朝日新聞』1月12日<<戎蛮馬>>
- 中華民国新内閣『東京朝日新聞』1月12、13日<<戎蛮馬>>
- 元帥府夜話『東京朝日新聞』1月14日<<戎蛮馬>>
- 南京見聞余録『東京朝日新聞』1月16、21、26日<<戎蛮馬>>
- 滬寧漫録『東京朝日新聞』1月22~25日<<戎蛮馬>>
- 帰舟余録『東京朝日新聞』1月28~30日、2月1、2日<<戎蛮馬>>
- [「総選挙に対する質問三ヶ条」]『新日本』2-5、5月1日
- 寺内總督論『新日本』2-6、6月1日<<戎蛮馬>>
- 岡崎邦輔論『新日本』2-8、8月1日<<戎蛮馬>>
- 明治民権史論『東京朝日新聞』10月2日~17、19~25、27~31日、11月1~9、11、13~16、18~20、22、23、25~30日、12月1~10、12~17、19、21~29日、1913年1月1、3、5、7~25日<<耕堂>>[1、2、8を『新聞集成大正編年史 大正元年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1978年)収録]
- 戎蛮馬を葬るの辞『新日本』2-11、11月1日
- 尾崎行雄論『新日本』2-11、11月1日

1913(大正 2)年

- 原敬と犬養毅[「現代人気者」]『実業之世界』10-1、1月1日
- 岡崎邦輔と尾崎行雄[「現代人気者」]『実業之世界』10-1、1月1日
- 安達謙三論『新日本』3-1、1月1日
- 桂公に与ふるの書『東京朝日新聞』1月26～30日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 大隈伯に与ふるの書『東京朝日新聞』1月31日～2月4日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 新首相桂太郎論『新日本』3-2、2月1日
- 政商輩に与ふるの書『東京朝日新聞』2月5～11日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』、『新聞集成大正編年史 大正2年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1969年)収録]
- 青年政治家に与ふるの書『東京朝日新聞』2月12～16日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 木堂先生に与ふるの書『東京朝日新聞』2月17～21日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 学堂先生に与ふるの書『東京朝日新聞』2月22～27日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 浪人組に与ふるの書『東京朝日新聞』3月1～4日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 原敬君に与ふるの書『日本及日本人』602、3月15日<<耕堂迂人>>[『七橋八縦』収録]
- 青年の奮起を促がす『世界之日本』4-4、4月1日
- 権兵衛大臣を憐む『中央公論』28-4、4月1日<<耕堂迂人>>
- 政友倶楽部に与ふるの書『日本及日本人』603、4月1日[『七橋八縦』収録]
- 憲政擁護根本論『日本及日本人』604、4月15日[『七橋八縦』「結論」として収録]
- 自覚に次で来るもの『実業之世界』10-9、5月1日
- 人心の激する所以『日本及日本人』605、606、5月1、15日
- 遙に胡英君を懐ふ 日本政治家同情家今奈何『日本及日本人』607、6月1日
- 支那南北の形勢『日本及日本人』608、6月15日
- 天下国家的青年『日本及日本人』609、7月1日
- 意気地なき政党『日本及日本人』610、7月15日
- 政界の前途『日本及日本人』611、8月1日
- 亡命の客に対して犬死の説を告ぐ『中央公論』28-11、8月15日<<中野耕堂>>
- 今昔の感『東京朝日新聞』9月2、5、6日<<耕堂>>
- 東拓の暗雲『東京朝日新聞』9月16日<<耕堂>>
- 満蒙は重要なれども田舎稼ぎ『日本及日本人』615、10月1日
- 不知は罪悪の基『日本及日本人』616、10月15日
- 山師よりは高利貸を敵とす『日本及日本人』617、10月31日
- 満州遊歴雑録『東京朝日新聞』11月9～17、20～22、25～29日、12月1～3、5、6、11～18、20、22、23、25日<<中野耕堂>>[『我が観たる満鮮』収録]

大國大國民大人物『日本及日本人』618、11月15日[『我が観たる満鮮』、今井清一編『大正思想集 I』
＜近代日本思想大系 33＞(筑摩書房、1978年)収録]

寺内伯動かんとす『東京朝日新聞』11月18、19日<<耕堂>>

國家の發展と内訌『日本及日本人』619、12月1日

1914(大正3)年

憲政擁護一周年『日本及日本人』621、1月1日

民党何ぞ振はざる『日本及日本人』622、1月15日

今後の東拓会社『東京朝日新聞』1月25～29日、2月2、3日<<耕堂迂人>>[『我が観たる満鮮』収録]

一瞥せる朝鮮の地方『中央公論』29-2、2月1日<<中野耕堂>>[『我が観たる満鮮』収録]

如何に大鉈を振ふ『日本及日本人』623、2月1日[『我が観たる満鮮』収録]

対外硬、対内潔『日本及日本人』624、2月15日

國民は果して覺醒せるか『日本及日本人』625、3月1日

我が憂ふる所『日本及日本人』626、3月15日

國民と陸海軍『日本及日本人』627、4月1日

御大禮内閣とは何ぞ『日本及日本人』628、4月15日

總督政治論『東京朝日新聞』4月16～25、27～30日、5月1日<<耕堂>>[『我が観たる満鮮』収録]

木堂屈する勿れ『日本及日本人』629、5月1日

黒鳩公の満蒙論『日本及日本人』630、5月15日

大隈伯に望む『日本及日本人』631、6月1日

金銭よりも人材『日本及日本人』632、6月15日

情実政治の不安『日本及日本人』633、7月1日

新人材の活路『日本及日本人』634、7月15日

政党大臣官僚大臣『日本及日本人』635、8月1日

大戦乱と國民の覺悟『日本及日本人』638、9月15日

日本帝國の使命『日本及日本人』639、9月20日

対支外交刷新の秋『中央公論』29-11、10月1日

挙國一致の成績『日本及日本人』640、10月1日

此の無方針を奈何『日本及日本人』641、10月15日

挙國一致論『日本及日本人』642、11月1日

更に一步を進めよ『日本及日本人』643、11月15日

犬養毅氏を中心として大正三年の政党界を論ず[「大正三年論」]『新日本』4-14、12月1日

虚偽の政策を排す『日本及日本人』644、12月1日

帝国外交の危機『日本及日本人』645、12月15日

1915(大正4)年

殿様政治『朝鮮公論』3-1、1月1日

総督政治の決潰期『日本及日本人』647、1月15日

同化政策論『日本及日本人』651、653、3月15日、4月15日[『我が観たる満鮮』収録]

上海沖より『東京朝日新聞』3月29日

支那大陸を右舷にて『日本及日本人』654、5月1日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

安南沖に泛びつつ『日本及日本人』655、5月15日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

新嘉坡より『日本及日本人』656、6月1日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

感慨多き印度洋『日本及日本人』657、6月15日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

対支外交と英国の不平『大阪朝日新聞』6月16日[『新聞集成大正編年史 大正四年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録][『東京朝日新聞』6月17日]

英国の内治外交『東京朝日新聞』6月28～30日[『新聞集成大正編年史 大正四年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録]

亡国の山河『日本及日本人』658、7月1日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

マルセイユまで『日本及日本人』659、7月15日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

欧州初見参『日本及日本人』660、8月1日[「亡国の山河」(『世界政策と極東政策』)収録]

工女の大示威行列『東京朝日新聞』8月30、31日<耕堂>

遙かに日本男児に激す『日本及日本人』662、9月1日

大国の頹廢を学ぶ勿れ『日本及日本人』663、664、666、9月15日、10月1、15日

露国の将来と日本の態度『日本及日本人』668～670、672、673、11月15日、12月1、15日、1916年1月15日、2月1日[「露国の将来と日本の自彊策」と改題、『世界政策と極東政策』収録]

1916(大正5)年

英国牛津より『朝鮮公論』4-2、2月1日

徴兵制度の決意『東京朝日新聞』2月7日<中野耕堂>[『新聞集成大正編年史大正五年度版 上』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]

英国徴兵制度の半煮え『日本及日本人』675、3月1日[『世界政策と極東政策』収録]

英国世界の人心を失す『日本及日本人』677、4月1日

世界の怨府なる英国『新公論』31-5、5月1日<中野耕堂>

絶島孤立経営論『日本及日本人』682、6月15日[『世界政策と極東政策』収録]

口頭丈の所謂日米親善運動に依頼せず 爾の額の汗より爾の運命を湧しめよ[21日談(於サンフランシスコ)]日米[The Japanese American News]6月24日

対支政策と対列強策『日本及日本人』686、8月15日[『世界政策と極東政策』収録]

英国の両面観[「英国研究」]『青年』4-9、9月1日

敢て対支同憂の士に質す『日本及日本人』687、9月1日[『世界政策と極東政策』収録]

此国民の情気を如何『日本及日本人』688、9月15日

独逸に於ける店員協会『実業之世界』13-20、10月1日

野党何ぞ蹶起せざる『日本及日本人』690、10月1日

悠長な英国人、気の早い日本人『日本評論』18、10月1日<<中野耕堂>>

外患將に薄らんとす『日本及日本人』691、10月15日

政界の大晦日『日本及日本人』692、11月1日

[「寺内内閣を如何に観るか」]『日本評論』19、11月1日

自主的日米親交論『日本及日本人』693~695、697、11月15日、12月1、15日、1917年1月15日[「日米親善か日米開戦か」と改題、『世界政策と極東政策』収録]

*[未詳]『政治及社会』1-1、月日未詳

1917(大正6)年

遊跡想痕漫録『日本及日本人』696、1月1日

入社辞『東方時論』2-2、2月1日

議院解散内外多事『東方時論』2-2、2月1日

米独の国交断絶と欧亜の新形勢『東方時論』2-3、3月1日

寺内内閣存続の意義如何『東方時論』2-4、4月1日

ブルドッグと秋田犬[談]『農業雑誌』1183、4月1日<<中野耕堂>>

政界の現状と建設的輿論の必要『東方時論』2-6、6月1日

露国の政変と列強勢力の消長『東方時論』2-6、6月1日<<耕堂生>>

独逸の田鼠政策『東方時論』2-6~9、6月1日、7月1日、8月1日、9月1日[第2回、第3回掲載表題は「独逸のもぐらもち」、第4回掲載は「独逸の実業的侵略事業 独逸のもぐらもち(四)」]<<中野耕堂>>

不徹底の外交調査会『東方時論』2-7、7月1日

東亜危し国危し『東方時論』2-8、8月1日

帝国産業の基礎脅やかさる『東方時論』2-8、8月1日<<耕堂>>

東方時論『東方時論』2-9、9月1日【石井子の使命とルート氏の使命、外交調査会と政界、英の税戦準備とボーナー・ロウ氏の陳述、マンチェスタリズムより自給主義へ、連合諸国は米国の鉄材輸出禁止を黙認するか、米国極東に挑まんとす、現金勘定の米露外交=東清鉄道譲与説、護謨園売却禁止、問題の地中海遺艦】

大戦乱は何時まで続く乎『東方時論』2-9、9月1日

時事評論『東方時論』2-10、10月1日【交戦列国の耐久力と打算力、予定のコースなき国は危し 不渡

手形の米国外交、石井遣米大使と米国の態度、南北調停の機来る、寺内首相の不干渉と林公使の干渉主義、日支国民協会の主張、露国の時局と列国の苦心】

日本帝国革新の秋『東方時論』2-10、10月1日

時事評論『東方時論』2-11、11月1日【恐慌来と外交政策の岐路、国際経済政策の序幕、対内驕=対外怯、対米屈従と政府の対支大投資策、支離滅裂なる対支外交、リガ港の砲撃と露国の危機】

対外能力と責任政治『東方時論』2-11、11月1日

時事評論『東方時論』2-12、12月1日【段内閣瓦解して日本の威信落つ=寺内伯林子如何の顔をかなす、馮国璋氏の実力と平和解決策 南方派の自重を望む、大に国論を喚起せよ、蒼海時代以上征韓論の昔に帰れよ】

*[未詳]『日本浪人』2-8、月日未詳

1918(大正 7)年

時事評論『東方時論』3-1、1月1日【事前の警告=戒厳令、露国民衆心理の向ふ所 英米の失策と善後策の腐心、西伯利亚独立と日本の態度、英土单独講和説と米国の教書 奇怪なり！人道主義の変通自在、再び支那南北の調停を説かん、槽中の犬を追へよ】

彼等に国策なく憲政なし『東方時論』3-1、1月1日

時事評論『東方時論』3-2、2月1日【第四十議会の惰気微温的不徹底の質問戦、林公使の傲語崇白卑黄の陋態、外交調査会山県公に蹂躪される 南北調停方針より傍觀主義へ、巫州の為に之を恥づ張継君感如何、露国は理想に於て世界を率ゐんとす、君見ずや西伯利亚の行路数千哩到所に殉難志士の枯骨累々たるを】

政府の施政方針と各党の宣言『東方時論』3-2、2月1日

維新の先覚津田出翁を懐ふ『東方時論』3-2、2月1日【耕堂】

現在の若手の働き者[「将来に注目すべき新進政治家」]『中央公論』33-3、3月1日

時論『東方時論』3-3、3月1日【内閣の威信失墜と其改造説 各政党の帰向如何、西園寺内閣の成立可能なりや 時勢は現実的奮闘家を要す、山県公の思惑と憲政会の夢 平田か、清浦か、閔族万々歳、対支政策再三動揺す 林公使山県公に訴ふ、対支政策の要点 極端なる南北論の愚】

公開せる講和会議『東方時論』3-3、3月1日

『伯林より東京へ』『中央公論』33-4、4月1日

似而非愛国者[「出兵問題賛否論」]『中外新論』2-4、4月1日

時論『東方時論』3-4、4月1日【国民は総て与らず本野外相の軽率、独逸世界政策と膨張の筋書 極東に散逸せんか近東に集注せんか、政治家の試金石と合格者不合格者 寺内、本野、三浦、原、犬養、民間有志、九博士、更に一人の合格者あり帰朝せる駐露内田大使、情実と行掛りを棄て胸中の誠意を喚起せよ 日支共同武装論と日本の責務】

片眼隻耳の外交を排す『東方時論』3-4、4月1日

日支政客に誨ふ『東方時論』3-5、5月1日

時論『東方時論』3-6、6月1日【廟堂を猫堂化せんとするか曰く西園寺、曰く原、曰く私、曰く党、英仏も内閣の更迭に躊躇せず=意義なく興味なき内閣更迭説、四百余州の南北東西を達観せよ彼等は空気と光線との供給足らず、段氏自ら南方討伐の難きを知る誠意は売物とならず、馮氏は段氏と見解を異に

す 馮總統曰く、段総理に問へ】

後藤新外相と外務の積弊『東方時論』3-6、6月1日

支那の内争と日本『大陸』6-7、7月1日

腑甲斐なし亜細亜の盟主『東方時論』3-7、7月1日

所謂亜細亜的術策を排す『中央公論』33-8、7月15日

浅慮外交屈辱出兵『東方時論』3-8、8月1日

大塩中斎を憶ふ『東方時論』3-9、9月1日

外に自主的協調、内には国民と協調『中央公論』33-11、10月1日

時論『東方時論』3-10、10月1日【国民は総べて知らず耑老人、松老人、隈老人、園老人、嗚呼此類廢的
氣分賢人政治の弊是に至る、西園寺は優柔、原は老獺「新政厚徳」の旗幟なるか、原氏よ国際的に横着
なれ】《耕堂》

国難四辺より迫る『東方時論』3-10、10月1日

時論『東方時論』3-11、11月1日【自主的に講和を見よ、戦争の試練と民主的潮流、政党内閣より国民
内閣へ、選挙制度は国民的なれ、軍備の編成も亦国民的なれ珍らしや安達総務、対支政策の動揺と田
中新陸相、速やかに南北を調停せよ】《耕堂》

戦時外交より講和外交へ『東方時論』3-11、11月1日

講和を現実に観よ『東方時論』3-12、12月1日

1919(大正8)年

渡欧の門出に『東方時論』4-1、1月1日

裸踊りの外交戦『東方時論』4-2、2月1日

奇怪なる米人の心理と新思潮難『東方時論』4-3、3月1日

世界改造の巷より『日米[The Japanese American News]』3月23~31日、4月1~13日

世界改造の巷より『日布時事』4月7~12、16~19、21~26、28~30日、5月1日

世界改造の巷より『東方時論』4-5、5月1日[東方時論社、4月刊。『現実を直視して』収録]

旭日旗影薄し『東方時論』4-5、5月1日[『現実を直視して』収録]

講和会議を目撃して『大阪朝日新聞』5月4~15、17~27、29~31日、6月2~6、8~14日[『講和会議を
目撃して』収録]

講和会議の真相[5月4日大阪毎日新聞社主催講演大要於大阪市中之島中央公会堂]『大阪毎日新聞』5月
5日

講和会議の表裏[5月4日大阪毎日新聞社主催講演速記於大阪市中之島中央公会堂]『大阪毎日新聞』5月
6~10、12、13、15~20、22日

講和会議と我特使[談]『信州』1-5、6月1日

我使臣の愚劣掩ふに言なし[在文責記者]『大観』2-6、6月1日

何ぞ困難に鑑みざる『東方時論』4-6、6月1日

山東問題と日支両国の教訓『実業之日本』22-13、6月15日
講和の使節の内幕を国民に報ず『寸鉄』1-7、7月1日
屋根裏の一青年—デオルヂヤの志士ガムベシチー『青年雄弁』4-7、7月1日
国民の解放は唯一の活路『中央公論』34-7、7月1日[『講和会議を目撃して』収録]
新局面は独露より開く『東方時論』4-7、7月1日
国民生活と国際生活『東方時論』4-7、7月1日[『講和会議を目撃して』収録]
国民外交の旗揚(全国莫大小業者の対英示威運動)『東方時論』4-7、7月1日
講和会議の真相[「調査資料」]『憲政』2-5、7月10日
誠意!勇氣!![青年に望む第一要件]『帝国青年』4-8、8月1日
如何か世界の窮困を救ふ『東方時論』4-8、8月1日
政治改革より純理改革へ『東方時論』4-8、8月1日
青島問題と労働問題『東方時論』4-8、8月1日
政党幹部の無能揃い『潮』2-9、9月1日
講和惨敗の跡[「講和使節を迎ふ 新帰朝永井・長島・中野氏の講和会議見聞記」]『寸鉄』1-9、9月1日
改造同盟論『東方時論』4-9、9月1日
誰か大勢を指導する『東方時論』4-9、9月1日
西園寺侯を迎ふ『東方時論』4-9、9月1日
講和会議後の時局と国民の覚悟『信州』1-10、11、10月1日、11月1日
改造へ、改造へ[「新時代の青年に与ふる書」]『中学世界』22-13、10月1日
人道的対露政策を提唱す『東方時論』4-10、10月1日
挑戦的米国に誨へよ『東方時論』4-10、10月1日
国民、喜劇政治に厭く『東方時論』4-10、10月1日
昔の儘の店は張るまい[「後藤尾崎両氏が帰つたなら」]『労働世界』4-10、10月1日
偶像と幻影と現実『東方時論』4-11、11月1日[『現実を直視して』収録]
現代唯物外交観『東方時論』4-12、12月1日
労働運動の試煉『東方時論』4-12、12月1日

1920(大正9)年

政局の前途は夫れ洪水か『国民新聞』1月1日
新現象と新人物『東方時論』5-1、1月1日[『現実を直視して』収録]
失敗せる対支政策—青島居留地問題と外務省—『人間』2-1、1月1日
国際政策としての西伯利撤兵論『東方時論』5-2、2月1日

四十二議会の各政党『東方時論』5-2、2月1日
 失敗せる対支政策—青島居留地問題と外務省『人間』2-1、2月1日
 全国政戦の巷(憲政会に必勝の策を献ず)[「日曜論壇」]『国民新聞』3月1日
 揺ぎ出せる政界の各勢力諸人物『東方時論』5-3、3月1日
 英米対日外交の転機『東方時論』5-3、3月1日
 議会解散政界総動員『東方時論』5-3、3月1日
 総選挙に臨む国民の責任『東方時論』5-4、4月1日
 独逸反革命の経過『東方時論』5-4、4月1日
 総選挙戦正に關なり『東方時論』5-5、5月1日
 総選挙前後の政界『東方時論』5-6、6月1日
 西伯利政策失敗の責任と根本的対策『東方時論』5-7、7月1日
 議場で処女演説を試みて[「初めて議政壇上に立ちて」]『中央公論』35-9、8月1日
 排日連盟成立の徴『東方時論』5-8、8月1日
 帝国外交の危機 錆び刀にて劍舞するを止めよ[「日曜論壇」]『国民新聞』8月15日
 波蘭の浮沈に鑑みよ『東方時論』5-9、9月1日
 新政治運動の新機軸『東方時論』5-9、9月1日
 錆刀を振り廻す日本『新世界』9月12、13日
 英雄の環境を偲びて『東方時論』5-10、10月1日[『現実を直視して』収録]
 亜米利加建国の精神に訴へよ[「日曜論壇」]『国民新聞』10月3日[中川竹三『加州問題の真相』(民友社、1920年)、『新聞集成大正編年史 大正九年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]
 建国の精神に訴へよ 米国民は斯の如き事を敢てするか 實に是不法極まる』『新世界』10月29~31日、11月1日
 汎米主義の六大展開と対日脅威『東方時論』5-11、11月1日[『現実を直視して』収録]
 満鮮の鏡に映して『国民新聞』12月1~29日、1920年1月3~20、22、24、25日[『満鮮の鏡に映して』、(十)を『新聞集成大正編年史 大正九年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1983年)収録]
 職業政治家の遊戯を排す『東方時論』5-12、12月1日
 *遊鮮漫評『信州』2-?、発行月日未詳

1921(大正10)年

新興民族を創造するの使命『東方時論』6-1、1月1日
 時論『東方時論』6-1、1月1日【新春露西亞の曙光、米露支三国の接近と日本、小幡公使の露支通商觀、東京市の醜態は國家の縮図、対米政策益々逡巡、加藤高明氏の対支論】
 米國建國の精神『紐育新報』686、1月1日
 米國建國の精神を會得せよ 日本國民の一大覺悟『日布時事』1月1日

政友会、憲政会及び国民党『東方時論』6-2、2月1日

時論『東方時論』6-2、2月1日【政友会の爛熟、加藤総裁の挑戦、国民党の産業立国論、議場整理の妙案、休会明けの帝国議会】

任侠と卑劣[演説]『雄弁』12-2、2月1日

海軍協定論と尾崎案『東方時論』6-3、3月1日

時論『東方時論』6-3、3月1日【所謂重大事件と元老、無勢力なる貴衆両院、憲政会の窮境転廻策、朝鮮の人心益々動揺、朝鮮統治と衆議院】

国民唯一の活路[2月12日拓殖大学主催植民講演会講演要領於神田青年会館、文責在記者]『東洋時報』270、3月20日

原内閣は精神的に斃れたる醜骸なり[「言論擁護と現閣糾弾」]『中外新論』5-4、4月1日

既成政党の破産『東方時論』6-4、4月1日

時論『東方時論』6-4、4月1日【政友会の血迷ひ、安価なる英国紳士道、米国と極東脅威の部署、列国の対露通商競争、英国苦心と日本の怠慢】

政変如何にして来るか『東方時論』6-5、5月1日

尾崎氏の遊説『東方時論』6-5、5月1日

米国の大野心と満州租借権『東方時論』6-5、5月1日

ブルジョア当局の怠慢と労働問題『東方時論』6-5、5月1日

有色人種絶滅策[文責在記者]『日華公論』8-5、5月1日

*青年日本国の建設『信州』3-6、6月1日<県立長野図書館所蔵>

国際的紛糾を解くの秘録『東方時論』6-6、6月1日

時論『東方時論』6-6、6月1日【政界革新の基調、国民党の態度と知識階級、東支鉄道の処分問題、山県公の封事問題と原敬氏、青島還付論と日本】

朝鮮問題と警察の民衆化『日華公論』8-6、6月1日

人類再生の秋に際して[講演大要]『廓清』11-5・6、6月10日

排日問題の考察と積極的対応策『現代』2-7、7月1日

武装的文弱国の狂態『東方時論』6-7、7月1日

如何にか政界を肅正せん『東方時論』6-7、7月1日

日英同盟と無条件撤兵『東方時論』6-7、7月1日

アタールとエロシエンコ『東方時論』6-7、7月1日

卑劣思想の打破と日支親善[文責在記者]『日華公論』8-7、7月1日

根柢を把握せよ『国民新聞』7月7~12、14、16、18、19、22、23日[7、8日付の表題は「根柢に徹せよ」]

已むを得ずんば原敬か『国民新聞』7月20日

新国家建設の第一歩 先づ国民精神の建替建直し『自由評論』9-8、8月1日

太平洋会議を活用せよ『東方時論』6-8、8月1日

同盟廃棄より独立孤往へ『東方時論』6-8、8月1日
 已むを得ずんば原敬か『東方時論』6-8、8月1日
 日支親善と満州に寄生する党類[文責在記者]『日華公論』8-8、8月1日
 太平洋会議愈々進展す『東方時論』6-9、9月1日
 国際政局の根源に徹せよ『東方時論』6-9、9月1日
 四国干涉何物ぞ[談]『武侠世界』10-13、9月1日
 難局を現実に見よ『国民新聞』9月17～27、29、30日、10月1～4、6～9、12、15～17日<25回連載>
 屈從は危機を招く『東方時論』6-10、10月1日
 時論『東方時論』6-10、10月1日【組上に眠る日本、日本の存立問題、太平洋会議の使節、加藤総裁の時局論、躍起組と敗北主義者、愚劣なる山東交渉と大連会議】
 極東平和の基礎＝日露支鮮四民族の融洽親善を図れ[文責在記者]『日華公論』8-10、10月1日
 *世界政局の渦と日本『世界公論』10月
 太平洋会議は果して国難か『新家庭』6-11、11月1日
 徳川使節の態度『東方時論』6-11、11月1日
 原内閣得意の絶頂『東方時論』6-11、11月1日
 感激・精進・躍動『雄弁』12-11、11月1日
 現代の青年と政治運動『寸鉄』3-12、12月1日
 外交果して至難『東方時論』6-12、12月1日
 高橋内閣の環境『東方時論』6-12、12月1日
 華盛頓会議と我当局の失体『国民新聞』12月21～23日

1922(大正11)年

ベルサイユ会議管見『中央史壇』4-1、1月1日
 国際日本の新活路『東方時論』7-1、1月1日
 華府会談と極東問題[文責在記者]『日華公論』9-1、1月1日
 豪壮なりし大隈侯『東方時論』7-2、2月1日
 政界漸次に展開す『東方時論』7-3、3月1日
 議会の悪評は何の徴『東方時論』7-4、4月1日
 最高の人道と最良の政策『労働立国』1-3、4月1日
 *政界の潮流と魚族の盲動『世界公論』4月
 我政界の新機運『信州』4-5、5月1日
 独露提携と日本『東方時論』7-5、5月1日
 政界革新の魁『東方時論』7-5、5月1日

政界腐敗の解説と救済の原理『東方時論』7-6、6月1日
加藤内閣に要望『東方時論』7-7、7月1日
批評圏外の加藤内閣[「新内閣の批判」]『東方時論』7-7、7月1日
西伯利撤兵の後図『東方時論』7-8、8月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
対露非干渉運動『東方時論』7-8、8月1日
独露破産同盟と日本『東方時論』7-8、8月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
少壮記者連の会を[「春秋会に対する所感と希望」]『新聞及新聞記者』3-6、8月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第5巻(金沢文圃閣、2022年)収録]
又新社と東方時論[巻頭言]『東方時論』7-9、9月1日
国際債権問題の両端を叩きて『東方時論』7-9、9月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
生活安定の民衆運動を起せ『東方時論』7-9、9月1日
対露交渉の要訣『東方時論』7-9、9月1日
生活に立脚して政治を慮れ[「時論」]『婦人公論』7-9、9月1日
婦人参政『女性』2-4、10月1日
人間性と利己[巻頭言]『東方時論』7-10、10月1日
国民外交の屏息を如何『東方時論』7-10、10月1日
対露交渉の基調『東方時論』7-10、10月1日
幼けなき思ひ出[「現代新人物 自叙伝の一齣」]『雄弁』13-10、10月1日
二重外交より国民外交へ[巻頭言]『東方時論』7-11、11月1日
極東に立ちて近東を見よ『東方時論』7-11、11月1日
物価問題の両翼『東方時論』7-11、11月1日
政党政治の改造『寸鉄』4-12、12月1日
剛健なる抵抗力を要す[巻頭言]『東方時論』7-12、12月1日

1923(大正12)年

新春の政界に面して『東方時論』8-1、1月1日
今期議会与物価問題『神戸又新日報』1月7日
[「『華族の邸宅地開放』に対する批判」]『解放』5-2、2月1日
気概と温情と打算『東方時論』8-2、2月1日
緊縮より暢展へ『東方時論』8-2、2月1日
孤立外交の光明『東方時論』8-2、2月1日
枢密院と陰謀政治『東方時論』8-3、3月1日
後藤子とヨツフエ氏『東方時論』8-3、3月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]

兩個の羅馬法王『東方時論』8-3、3月1日
 地租国税の撤廃と地方長官の民選論 革新俱樂部本議会の提唱[談]『新世界』3月1～3日
 世界政策としての露西亜承認『東方時論』8-4、4月1日
 露国を承認せよ『秋田魁新報』4月2日
 政変説と政界『東方時論』8-5、5月1日
 労農国承認の効果[「日露通商に面して」]『国論』9-10、5月15日
 露西亜を即刻無条件にて承認せよ[「労農ロシヤ承認問題」]『改造』5-6、6月1日
 日露国交の精神的要素『東方時論』8-6、6月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
 日露交渉の暗礁『東方時論』8-7、7月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
 醜悪なる日露交渉『東方時論』8-8、8月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]
 現状打破は徹底的に『東方時論』8-8、8月1日
 対支問題の要訣『東方時論』8-8、8月1日
 殺されたる主義者『東方時論』8-8、8月1日
 [「研究室臨検事件に就ての感想」]『日本教育』2-8、8月1日
 復興の経綸『我観』1、10月15日
 国民の期待する所 権兵衛伯と後藤子犬養氏『我観』1、10月15日<中野耕堂>
 新興勢力と普通選挙『我観』2、11月15日
 普選と政治的勢力のプロダクション[「普選の実施と既成政党の将来」]『改造』5-12、12月1日

1924(大正 13)年

国際経済政策としての対露問題『我観』3、1月1日
 普選と政治的 PRODUCTION『工場世界』5-1、1月5日
 特権内閣の本質的検討『我観』4、2月1日
 *英語と日本国民『カレント・オヴ・ザ・ワールド』1-3、2月5日
 インテリゲンチヤへの希望[「学芸 政局と知識階級」]『東京朝日新聞』2月15、16日[(上)のみ『新聞集成
 大正編年史 大正十三年度版 上ノ上』(明治大正昭和新聞研究会、1986年)収録]
 今や青年の責務重大なり『青年大学』1、3月1日
 日露両国民に懇ふ『我観』6、4月1日
 総選挙に直面して『我観』7、5月1日
 [「わが愛読の秋に関する古今東西の文章詩歌について」]『随筆』2-9、10月1日
 来る可き通常議會を予想して在野党の無氣力を歎ず[「来る可き議會の予想」]『世紀』1-1、10月1日
 支那時局と対支態度[「論壇」]『憲政』7-10、10月10日
 *感激、精進、躍動『偉大』67、10月、

不干渉主義の積極的発動『我観』[改卷]6、12月1日<<二十六峰外史>>[『中野正剛対露支論策集』収録]

1925(大正 14)年

政界座談 政党政治の将来『平凡』2-1、1月1日[10月4日座談会(於富士見町富士見軒): 田子一民、星島二郎、長島隆二、島中雄三、西村弘明、野村秀雄、下中弥三郎]

孫文氏の去来と亜細亜運動『我観』7、1月1日<<二十六峰外史>>[『国民に訴ふ』、『中野正剛対露支論策集』収録]

流動的弾力を失つた[「横田没後と三派提携の将来」]『改造』7-3、3月1日

日露親交の真価値『我観』9、3月1日

来らんとする露支両国大使『我観』9、3月1日<<耕堂>>

普選断行の主張『我観』10、4月1日

普通選挙の論陣『憲政公論』5-4、4月1日

日露条約の国際的価値[「日露の復交と国民」]『新天地』5-5、5月1日

日露問題を中心として[「思潮」]『日本警察新聞』639~642、5月1、10、20日、6月1日

進藤喜平太翁『我観』13、7月1日<<耕堂学人>>

対支同情の徹底を怕るゝ勿れ『我観』14、8月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]

日支露の国際的地位[10月5日演説抄於満鉄社員倶楽部]『新天地』5-12、12月1日

1926(大正 15・昭和元)年

日支融合の現実化『我観』27、1月1日[『中野正剛対露支論策集』収録]

新春を迎へて極東の黎明を想ふ『立憲青年』6-1、1月1日

政党首領としての若槻氏[「若槻内閣と政界の前途」]『改造』8-3、3月1日

若槻内閣を繞りて『我観』29、3月1日<<二十六峰外史>>

最近の露西亜を視察して『現代』7-3、3月1日

対支外交と政友会『立憲青年』6-2、3月1日

政友会の四幹部調査の件-(大正十五年三月四日衆議院速記録)-[「第五十一議会の三大査問会」]『新使命』3-4、4月1日

1927(昭和 2)年

軍縮会議の成立を望む[「論壇」]『憲政公論』7-3、3月1日

枢密院弾劾の政治的意義『民政』1-1、6月1日

不当極まる枢府の行動(第五十二議会に於ける枢府弾劾案の説明演説)『立憲青年』7-6、6月1日

揚子江は魔の淵[「支那干渉か不干渉か」]『我観』45、7月1日

既成政党は何を存在理由とするか 政綱中心に階級超越の糾合『エコノミスト』5-19、10月1日

国際主義と人種平等[「誌上青年処女大会」]『現代』8-10、10月1日

1928(昭和3)年

危険なる対支政策『布哇報知』1月1日

大地に刻せよ『経世の文字』『九州日報』1月17日

[善行少女への褒賞]『九州日報』1月21日

南洲論『九州日報』1月23～31日、2月1～5日

大地に刻せよ経世の文字—(清水芳太郎君を九州に送る)—『我観』52、2月1日

立憲民政党の国家整調主義[「八大政党の指導原理」]『経済往来』3-2、2月1日

我党の高調する国家整調主義[「論壇」]『民政』2-2、2月1日

[「特別広告」]『九州日報』2月13日

普選に大勝したる我党の真面目[「論壇」]『民政』2-3、3月1日

単に臭い点では政友も同じ事 殊にムツソリーニの嗅のする田中、鈴木、小川[談]『九州日報』4月14日

円タク型のムツソリーニと幼稚な労農党[「共産党検挙と労農党解散」事件]『中央公論』43-5、5月1日

内閣弾劾の前提として—民政党の賛成理由『立憲青年』8-5、5月15日

さつま汁にせ田舎料理[「僕の妻が拵へてくれる一番美味しい料理」]『婦人倶楽部』9-6、6月1日

支那は混沌より混沌へ[「動乱の支那は何処へ行く」]『雄弁』19-7、7月1日

脱党の理由頗る薄弱 天下公人の首肯すべき理由なき行動は陰謀に過ぎぬ[談話記事]『九州日報[夕刊]』8月2日

対支政策の更新[7月31日演説速記於九州劇場]『九州日報』8月12～31日、9月1～10日[『国民に訴ふ』収録]

白虎隊の墓を弔ひて『九州日報』9月11日[『国民に訴ふ』、『魂を吐く』収録]

田中総裁の魂胆[「政友民政党首後継者問題」]『改造』10-10、10月1日

[「芸妓問題と輿論」]『廓清』18-10、10月10日

政機將に動かんとす『九州日報』10月23～31日

政機將に動かんとす[「東方時論」]『我観』61、11月1日

大典の京洛より 錦旗を草莽の間に建てよ『九州日報』11月15日

大典後の政界展望『九州日報』11月22～27日

大典後の政界展望 政府与党の議員誘拐策[「東方時論」]『我観』62、12月1日

崩壊せる田中外交[「今議会では何が中心か」]『九州日報』12月15～20日

1929(昭和 4)年

- 対支政策の惨敗[「東方時論」]『我観』63、1月1日
- 我党は斯く進まん『九州日報』1月1日
- 日支関係の悪化と満鉄回収問題[「国民政府の所謂満蒙及満鉄回収論」]『改造』11-2、2月1日
- 田中強硬外交の死命を制する難題[談]『九州日報』2月10日
- 田中外交の責任解除『九州日報』2月28日～[『九州日報』3月は未見]
- 田中外交の責任解除[「東方時論」]『我観』64、3月1日[『国民に訴ふ』収録]
- 暴露の正体『中央公論』44-3、3月1日
- 日支漫言『日支』2-3、3月1日
- [「小選挙区制批判」]『我観』65、4月1日
- 国民が承認せぬ田中内閣[「議会後の政局はどうなる」]『改造』11-4、4月1日
- 田中外交の全部的失敗[「政局は何処へ?」]『改造』11-5、5月1日
- 所謂済南事件の解決[「外交時言」]『九州日報』5月29日
- 吉会線問題とブラフ外交の破産[「外交時言」]『九州日報』5月30日
- 日本の退嬰と米国の弗的支配[「外交時言」]『九州日報』5月31日
- 所謂済南事件の解決[「東方時論」]『我観』67、6月1日
- 吉会線問題とブラフ外交の破産[「東方時論」]『我観』67、6月1日
- 日本の退嬰と米国の弗的支配[「東方時論」]『我観』67、6月1日
- 醜劣なる資本家の内争と労農露西亜[「東方時論」]『我観』67、6月1日
- 南京政府の試金石[「東方時論」]『我観』67、6月1日
- 醜劣なる資本家の内争と労農露西亜[「外交時言」]『九州日報』6月1、2日
- 南京政府の試金石[「外交時言」]『九州日報』6月3日
- 不戦条約問題と枢密院の責任問題[「東方時論」]『我観』68、7月1日
- 杉森孝次郎を評す[「第一線の人・想と行動相互批判」]『読売新聞』7月11日
- 餓死して見る!! 国宝だ!! 『キング』5-8、8月1日
- 緊縮より努力へ[8月15日全関西婦人連合会主催消費経済講演会於大阪朝日会館]『全関西婦人連合会』6-9、9月10日
- カフェーよりも坊さんを取締れ[談]『大阪毎日新聞[夕刊]』12月6日[『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版 IV』(新聞資料出版、1990年)収録]

1930(昭和 5)年

- 解散の直前に『九州日報』1月24～30日
- この勢で行けば二百六十名を突破 福岡県一区こそ理想選挙の典型[談]『九州日報』2月23日

男子の本懐『キング』6-6、6月1日[『玄南文集』収録]

二人の異なつた立場[「四ツに組んだ財部と加藤」]『サンデー毎日』9-28、6月15日

明るい気持ちのよい人をほめる座談会『キング』6-7、7月1日[座談会：梶原仲治、小村欣一、宍戸左行、鈴木文四郎、鶴見祐輔、牧野良三、守屋東、細木原青起、山本忠興、吉岡弥生、和田英作、小野賢一郎]

国家統制の経済的進出『九州日報』7月16～18、20～24日

国家統制の経済的進出[「日本更生への示唆」]『我観』81、8月1日

国家統制の経済的進出[「論壇」]『民政』4-8、8月1日

打開の一途[9月18日国民新聞社主催不景気打開演説会速記]『国民新聞』10月15～17、19、21～24日[国民新聞編輯局編『不景気打開の途』(啓成社、1930年)収録]

闘犬を語る『サンデー毎日』9-52、11月16日

国運進展の大方策『雄弁』21-12、12月1日

経済産業の国家的統制[1930年7月講演速記於東京帝国大学経済学部保険演習学友会]『保険評論』23-9、24-1、12月30日、1931年1月31日

1931(昭和6)年

対支関係の再組織[「論叢」]『外交時報』638、1月1日[『沈滞日本の更正』収録]

政治家の決心『九州日報』1月3～5日

大戦後の世界財界の推移と我国の財政政策 付、電話民営の論拠とその骨子[1930年11月11日講演於日本貿易協会第55回午餐会]『貿易』31-1、1月15日

党本部に帰るまで『我観』87、2月1日

議会を顧みて『東京朝日新聞』4月1～3、6日[「五十九議会を顧みて」]『大阪朝日新聞』4月1、2、6、7日
第五十九議会を顧て『民政』5-5、5月1日

時代に順応する若槻首相の弾力性[談]『九州日報[夕刊]』5月15日

現下時局に対する私の経綸[5月27日於朝日講堂]『講演集』254、5月30日

不況打開の概念と適用『国民新聞[夕刊]』6月19～21、23、25～28、30日、7月1～4、7、8日

対支関係の再組織『外交時報』638、7月1日

対支関係の再組織と其の指導原理『九州日報[夕刊]』7月1～5、7、8、10～12日

シッカリシロ・チチ『九州日報』8月21～30日

シッカリシロ・チチ『中央公論』46-9、9月1日[『魂を吐く』、『子を喪へる親の心』(岩波書店、1937年)収録]

青年日本の曙光『キング』7-10、10月1日

国民外交を以てせよ! [「満蒙をどうする」]『経済往来』6-10、10月1日

意志の強さ、情味の香り[「男らしい男、女らしい女」]『婦人倶楽部』12-10、10月1日

満蒙と我が特殊權益座談会『文芸春秋』9-10、10月1日[9月4日座談会(於星ヶ丘茶寮):建川美次、佐藤安之助、高木陸郎、森格、大西斉、神川彦松、佐々木茂索][『「文芸春秋」にみる昭和史』第1巻(文芸春秋、1987年)収録]

支那に責任者なし 須らく実質的に解決せよ『エコノミスト』9-20、10月15日

現前の問題を先づ片づけよ[「満州事変 我等はかく主張する」]『大阪朝日新聞』10月28日

英米の拘束から離脱すべし[「時局を検討す」]『東京朝日新聞[夕刊]』10月29日

満州問題を中心として『ダイヤモンド』19-35、11月11日

謠曲外交・幣原の失敗とジヤズ外交・佛蘭西の成功—いつまでも、英国のだしに、使はれる勿れ—『サラリーマン』4-10、1931-11月15日[発禁処分により『サラリーマン』4-10改訂版、12月1日にも掲載]

満州問題を中心として『九州日報』11月19~28日

満州問題を中心として[11月2日於横浜高等工業学校]『講演』165、11月30日

満蒙侵略者は支那 日本は譲歩するな[「満州をどうする?」]『東京朝日新聞』12月15日

自由国を建設し日本は後援保護せよ[「満州をどうする?」]『東京朝日新聞』12月16日

満州を我国労働者の安住地たらしめよ[「満州をどうする?」]『東京朝日新聞』12月17日

世界経済から問題を視よ[「満州をどうする?」]『大阪朝日新聞』12月18日

新自由国を擁護せよ[「満州をどうする?」]『大阪朝日新聞』12月19日

労働と資本を併進させよ[「満州をどうする?」]『大阪朝日新聞』12月20日

1932(昭和7)年

英雄偉人を語る座談会『キング』8-1、1月1日[座談会:中村孝也、中島徳蔵、澤田謙、笹川臨風、菊池寛]

国民は枯死する[「二大國難に直面して挙國一致植民放送大会」]『植民』11-1、1月1日

政変に直面して『中央公論』47-1、1月1日

一時的景気の錯覚を指摘し全國民に告ぐ 政治家の発奮すべき絶好期『新潟新聞』1月1日

字典外交から脱却せよ[「満蒙問題再吟味」]『北海タイムス』1月1日

郷党の同志と充分に語りた[談]『九州日報』1月4日

内外風雲急 今度の政変は世界に相關連する[談]『九州日報』1月4日

大國民の襟度『國民新聞』1月6、7日

政局の真相と吾徒の動向『九州日報』1月19~31日

政局の真相と吾徒の動向[1月15日講演於日本青年館]『講演』170、1月20日

政変の真相と時局[1月28日(於麻布南山小学校)]『講演集』277、1月30日

*月旦俱樂部第五回例會 日本主義國策座談会『人の噂』3-1、1月[座談会:高須梅溪、山田丑太郎、佐々井一晃、滿川龜太郎、村松梢風、ラス・ビハリ・ボース、五百木良三、下中彌三郎、尾崎行、朴春琴]

ソシアル・ナショナリズムの色彩にて[「政治時評」]『改造』14-2、2月1日

協内閣説をめぐる政変の内幕を語る 民政党の御家騒動の真相は斯くの如し『サラリーマン』5-2、2月1日

脱退哲学 その総論[談]『東京日日新聞』2月1日

満蒙建立の精神『外交時報』653、2月15日

フラスシズムの指導目標[談、「フワツシヨと日本」]『国本』12-3、3月1日

フアシズム批判座談会『東洋経済新報』1492、3月26日[3月15日座談会(於経済倶楽部):室伏高信、松岡駒吉、長谷川如是閑、中島久万吉、下中弥三郎、北吟吉、赤松克麿、杉森孝次郎、三浦鏡太郎、石橋湛山][『経済倶楽部講演録』799、2015年9月再録]

我が意気と新鋭機 一世を警醒せん 九州日報の新使命 自祝の言『九州日報』[九州日報社新築記念号]5月15日

テロを防ぐ途 たゞ国民運動[談]『九州日報』5月16日

哀れ時勢急激の犠牲、犬養首相[談]『九州日報[夕刊]』5月17日

中野正剛氏時局座談会[5月17日時局座談会挨拶於九州日報社]『九州日報』5月17～27日

日本の国策を論ずー満蒙対策の基調ー『経済往来』7-6、6月1日

農村応急対策座談会『大阪毎日新聞』6月13～22、24、25、26、28～30日、7月2～7日[6月11日座談会(於東京会館):東武、有馬頼寧、内ヶ崎作三郎、小川郷太郎、岡田温、大口喜六、加藤完治、加藤知正、上山満之進、後藤文雄、杉山元治郎、千石興太郎、添田敬一郎、東郷実、那須皓、深井英五、福沢泰江、松村謙三、三土忠造、森格、矢作栄蔵、矢野恒太、(本社側)岡副社長、岡崎総務、西村副主幹、杉山経済部長、松岡編集顧問、阿部論説委員]

*[未詳]『昭和評論』1-1、6月

日本の動向[5月7日於青山学院講堂]『講演』187、7月10日

丁正使、林副使一行に捧ぐ[「歓迎満州国使節一行」]『九州日報』7月15日

時代革新の暁鐘『現代』13-8、8月1日

立憲政治の危機を救ふものは何か[「政党政治不安とその対策」]『実業之世界』29-8、8月1日

政界新人と少壮評論家 新日本建設座談会『文芸春秋』10-8、8月1日[座談会:風見章、野中徹也、杉浦武雄、大森義太郎、佐々弘雄、香月保、林広吉、菅忠雄]

満州の、即時承認を高調す 駒井長官を迎へて『九州日報』8月10～12日

新興日本の動向に就いて『工場世界』13-9、8月10日

日本に於て国民大衆諸君に告ぐ[8月9日於中央放送局]『講演』191、8月20日

現実を直視せよ 内外時局問題に対する所見[インタビュー]『ダイヤモンド』20-25、8月21日

満州国即時承認を高調す[8月21日駒井氏歓迎会演説速記於東京会館]『我観』106、9月1日

この非常時に政府の決心を問ふ[議演説速記]『九州日報』9月1～8日

駒井長官を迎へて満州国即時承認を高調す『朝鮮地方行政』11-9、9月1日

新日本発展の大策『雄弁』23-9、9月1日

国民同盟は何を主張する『日本講演通信』155、9月7日
国際登録は甚だ容易[「時事片々」]『九州日報』9月9日
極東日本の重責更に大[声明]『九州日報』9月16日
[「名士 問合せ回答 一、私が三十五才の時は何処で何をしてみたか。二、今から三十五年前(明治三十年)の私は、何処で何をしてみたか。』]『実業之日本』35-19、10月1日
満洲国の独立と日本の根本大策[文責在記者]『新天地』12-10、10月1日
中野正剛氏歓迎座談会[9月29日座談会(於朝鮮ホテル)]『朝鮮公論』20-10、10月1日
日本の対満蒙政策を論ず『東邦時論』9-10、10月1日
統制経済と強力政党(日滿統制経済の具体的方法)『内外公論』11-10、10月1日[連載の完結。第11巻第9号以前は未見]
日滿統制経済に特殊機関を設けよ[談]『九州日報』10月3日
ハリマン協定以来の火事泥主義を暴露 許すべからざる英米の野心[リットン報告書に関する談]『九州日報』10月4日
*満洲国視察談『日本講演通信』161、10月
旻天答へず 亡き河本本社長を語る『九州日報』11月13日

1933(昭和8)年

西郷隆盛を語る『日の出』2-1、1月1日
日本経済革命論と清水君『九州日報』1月6~8日
国際正義の再建『国民新聞』1月6~10日
国際正義の再建『九州日報』1月9~13日
強力政治論『九州日報』1月24~26、29、30日
強力政治論『改造』15-2、2月1日
強力政治論『日本講演通信』177、2月24日
連盟脱退に直面して『日本講演通信』177、2月24日
連盟脱退に直面して『九州日報』2月28日、3月2~6日
連盟脱退の我が財界に及ぼす影響如何を主題とする座談会『経済情報』8-3、3月1日[2月20日座談会(於丸の内会館):石橋治郎八、徳田六郎、大口喜六、大熊真、渡辺政人、河合良成、加藤鯛一、横田信一、田川大吉郎、鶴見祐輔、芦田均、中島義治、梅浦健吉、山口敏夫、松方幸次郎、二神駿吉、小島精一、佐羽大三郎、円地与四松、水野広徳、下河辺健二、高橋亀吉、落合久次]
千倉豊吉君を送る『九州日報』3月14日
更生期に立つ帝国の外交[3月20日(於報知新聞社講堂)]『旬刊講演集』319、3月30日
恐慌無き孤立『外交時報』680、4月1日
孤立日本の政治経済[「連盟脱退後の諸問題」]『財政経済時報』20-4、4月1日

連盟脱退と名誉の孤立[「連盟脱退後の日本」]『政治経済時論』8-4、4月1日

[「ジツギョウサロン 読物 名士川柳大会」]『実業之日本』36-8、4月15日

『総辞職は決定的』[談]『九州日報[夕刊]』4月18日

駒井氏を迎へて[4月13日於朝日講堂]『講演』216、4月30日

孤立日本の政治経済『新東洋』2-5、5月1日

強力政治と新日本の建設[「強力政治論」]『政治経済時論』8-5、5月1日

*満洲・支那・世界経済会議 諸問題に直面し国策確立の急務を叫ぶ『事業之日本』12-6、6月1日

政局座談会『ダイヤモンド』21-17、6月1日[出席者：半沢玉城、若宮卯之助、常松三郎、清沢冽、直木三十五、前田蓮山、岸井寿郎、石山賢吉、安田与四郎]

王道に基き亜細亜民族団結せよ[5月30日大東文化学院弁論部主催亜細亜問題大講演会於神田一ツ橋教育会館]『講演の友』1-5、6月22日

国民の覚悟 我国の極東モンロー主義確立への新気運は来る[談]『九州日報[夕刊]』7月7日

東洋民族結成の大使命『政治経済時論』8-8、8月1日

亜細亜民族団結せよ『東邦時論』10-8、8月1日

*大亜細亜モンロー主義の提唱『日本講演通信』200、[9月5日]

国策協定策を検討す『経済往来』8-11、10月1日

大亜細亜モンロー主義の提唱『新国民』58-1~6、10月5日、11月5日、12月5日、**1934年**1月5日、2月5日、3月5日、

統制経済を急げ 救世の大獅子吼 国民全階級参加せよ[演説速記]『九州日報』10月9日

国策申合せを批判する[談]『九州日報』10月22日

現前の問題を先づ片づけよ あとは気永にやるがよい[「満州事変 我等はかく主張する」]『大阪朝日新聞』10月28日

余の労働運動指導原理[「特別寄稿」]『政治経済時論』8-11、11月1日

私は何故通友同志会に入ったか[10月13日、中野正剛氏と記者の一问一答於東方会]『労働経済』4-11、11月1日

国家改造の指標[11月2日於日比谷公会堂]『講演』236、11月20日

余の国家改造計画の大綱『政治経済時論』8-12、9-1、2、12月1日、**1934年**1月1日、2月1日

文化事項の重大性『新美術』2-12、12月5日<東京国立博物館資料館所蔵>

労働運動に対する私の信念『工場世界』14-13、12月10日

非常時日本国家改造論[11月21日(於朝日講堂)]『旬刊講演集』344、12月10日

1934(昭和9)年

日本改革論『大阪毎日新聞』1月1、3~9、12~15日

合法的国民運動あるのみ[「一九三六年を目指す七名家時局大講演」]『現代』15-1、1月1日

極東モンロー主義と強力政治の必要『東邦時論』11-1、1月1日

国民よ、進め 悲観を越えて『新潟新聞』1月1日

大亜細亜モンロー主義の提唱『雄弁』25-1、1月1日

*統制経済論『政界春秋』20-1、1月

*非常時国家改造の動向『青年日本』10-1、1月

愛郷塾の弾圧も亜流の続出は何故ぞ 現経済機構は農村を崩壊する[演説速記]『九州日報』1月26日

政党政治は復活するか『改造』16-2、2月1日[1月8日座談会(於帝国ホテル): 島田俊雄、長谷川如是閑、富田幸次郎、松岡洋右、佐々弘雄、大森義太郎、山本実彦]

非常時の本質如何—斎藤内閣を難詰す—[第65議会質問演説速記]『日本講演通信』224、2月5日

現下日本の急務[2月22日(於青山会館)]『旬刊講演集』351、2月28日

統制経済の確立『財政経済時報』21-3、3月1日

国民内閣出現への過渡期[「特輯政局はどう変はる?」]『ダイヤモンド』22-7、3月1日

余が抱く理想内閣[「嵐に揺ぐ斎藤内閣」]『中央公論』49-4、4月1日

足ばかり十本描く[「兄弟を語る」]『週刊朝日』25-17、4月8日

特別会計座談会『通信協会雑誌』308<通信事業特別会計実施記念>、4月10日[座談会: 南弘、前田利定、安達謙藏、望月圭介、三土忠造、古島一雄、小池仁郎、内田信也、若宮貞夫、桑山鐵男、植原悦二郎、川崎克、東郷實、坂野鉄次郎、伊豆富人、宮澤裕、牧野良三、大橋八郎、立花種忠、上ノ畑梯二、平沢要、平井貞三、武田泰郎、久埜茂、山本直太郎、米沢與三七、富安健次、猪熊貞治、西邨知一]

*国家改造計画案(八)『日本精神』54、5月5日

非常時局の展望『大倉高等商業学校東亜事情研究』15、7月15日

亡き妻たみ子を偲ぶ『婦人倶楽部』15-9、9月1日

「政党に復活力ありや」座談会『文芸春秋』12-9、9月1日[出席者: 前田米蔵、安藤正純、俵孫一、富田孝次郎、河崎克、安部磯雄、加藤綱一、宮沢俊義、阿部真之助]

時評『我観』12-10、10月1日【軍縮方針の鉄則、日米の喰ひ違ひ、極東政策の推進力、国際対立の強化と複雑化、対支外交好転の原動力、覚悟なし対策なし、官僚ファッションの正態、名節なき精神作興論、怪しき資本家群の代弁者、顛落より再生へ】

戦争は避けられぬか?『我観』12-10、10月1日[9月4日座談会(於丸の内日本倶楽部): 本多熊太郎、風見章、竹内謙二、山崎靖純、小島正、小島精一、三宅雪嶺、森武夫、関根群平、杉森孝次郎]

市電争議を斯く見る[「東京市電争議批判」]『政治経済時論』9-10、10月1日

時論『我観』12-11、11月1日【庸人国を誤る、痴漢長刀を横たう、パンフレット問題、岡田内閣の解体、アリゾナの暴状を如何】[「パンフレット問題」は、『国防の本義と其強化の提唱』に対する評論集(陸軍省新聞班編・刊、1934年)収録]

親露外交論『改造』16-12、11月1日

陸軍の政治干与[「陸軍パンフレットの批判」]『経済往来』9-11、11月1日[『国防の本義と其強化の提唱』に対する評論集(陸軍省新聞班編・刊、1934年)収録]

正々堂々たる主張[「陸軍国策の総批判」]『中央公論』49-12、11月1日[「国防の本義と其強化の提唱」に対する評論集](陸軍省新聞班編・刊、1934年)収録]

*官僚フアツシヨの正態『経国時評』1、11月

時論『我観』12-12、12月1日【日、英、米非常時政策のコントラスト、偷安者流の幻滅、無惨なる官僚の秀才、若槻総裁引退の意義、政党崩壊期に入る、米なきに米倉を如何】

伝統的官僚予算の最後のもの[「新予算と財界の前途如何」]『経済情報』9-26、12月1日

*全国民運動の一環としての労働運動綱領『日本講演通信』211、月日未詳

1935(昭和10)年

時論『我観』13-1、1月1日【政友会醜態の暴露、政党封建の打破、議会弁論の放送】

小国民教育の貧困とその救済精神(現代教育の欠陥とその指針)[1934年11月29日講演、青山師範青道会主催講演会於青山会館]『講演の友』58、1月1日

日本の行くべき途『九州日報』1月3日

新党樹立を語るの夕『経済往来』10-2、2月1日[1934年12月30日座談会(於帝国ホテル):秋田清、杉森孝次郎、緒方竹虎、室伏高信]

岡田内閣の財政政策に対する質問[「第六十七議会と農政問題」]『農政研究』14-2、2月1日

勢ひ成れば天下は動く—中野正剛氏語る—[談]『時局』28、2月5日

時論『我観』13-4、3月1日【政府と政党との無力化、反動的自由主義時代、現代世界の三大脅威とは?、国民的自由に対する脅威?、戦争に対する脅威、次に来るものは何ぞ】

阿部真言君を弔ふ『新天地』15-3、3月1日

時論『我観』13-5、4月1日【極東諸関係の再編成、以夷制夷の結末、時代錯誤の英米提携論、日支提携の経済的背景、北鉄交渉の成立と極東関係の整調】

阿部真言君を悼む『我観』13-5、4月1日

時論『我観』13-6、5月1日【歓迎満州国皇帝所感、天皇機関説論議の背景、ストレーザ会議と欧州の緊張、内閣審議会の清算作用、ストレーザ会議の展開】

岡田内閣への挑戦『経済往来』10-5、5月1日

自由主義の全盛[「顛落自由主義の検討」]『中央公論』50-5、5月1日

六月の論壇『東京朝日新聞』5月31日、6月1~6日【審議会と調査局、国防と財政、学者の要望、欧州の風雲、一木喜徳郎、小栗警視総監】

時論『我観』13-7、6月1日【内閣審議会の成立、軟派政客の成立、池田、各務の役割、所謂「新政党計画」、安達さんに望む】

時論『我観』13-8、7月1日【国際新情勢の認識、北支問題の真意義、日支共通の大使命、糞土の壙と政党運動】

政局新分野の動向『月刊維新』2-7、7月1日

北支問題を中心に転廻する政治諸情勢『ダイヤモンド』23-19、7月1日

時事所感—現下の日本の諸問題—[6月22日講演、大倉高等商業学校東洋事情研究会主催於神田青年会

館]『講演の友』77、7月20日

時論『我観』13-9、8月1日【北支問題の必然性、非常時の再燃拡大、選挙粛正の陣容】

北支新政府をめぐる『我観』13-8、8月1日[座談会：野田蘭蔵、磯村少佐、大西斉、出井盛之、小島精一]

時論二題『時局』33、8月1日[『我観』から転載]

時事所感『大倉高等商業学校東亜事情研究』17、8月10日

時論『我観』13-10、9月1日【保境安民より独立建国へ、英国対支特使の認識、治外法権撤廃の意義、内閣審議会の失踪】

時論『我観』13-12、11月1日【英伊の対立を中心として、現状維持派と打開派の対陣、空軍の新威力、対支工作の国防的解説】

地方選挙と新興勢力[「地方選挙の戦蹟を顧みて」]『月刊維新』2-11、11月1日

日本拡大強化論[11月12日(於早稲田大隈講堂)]『旬刊講演集』412、11月20日

時論『我観』13-13、12月1日【全支那動揺の世界的背景、第二次大戦の前奏、政府の仮死状態】

危機に立つ日本の対支政策[「論壇」]『経済情報』10-32、12月1日

*学会雑誌の思い出『[修猷館]同窓会雑誌』猷館中学創立五十周年記念号、12月[『玄南文集』収録]

1936(昭和11)年

革新政治の展開[「主張」]『我観』14-1、1月1日

支那は何うなる？日英米蘇の動向『我観』14-1、1月1日[座談会：高木陸郎、山崎靖純、森武夫、池田中佐、岡田少佐、梨本祐平、小島精一]

日本外交の反省『改造』18-1、1月1日

暁春に騎る『九州日報』1月1日

日本拡大強化論 日本の危機？世界は迫る！[1935年11月12日講演於早稲田大学大隈講堂]『講演の友』93、1月1日

渡支に際して『時局』37、1月1日

如何にか環境を切り拓く[「どう打開する」]『時事新報』1月6、7日

国民の全能力を国家経営に総合せよ 支那問題解決の根本義[政局随想]『大阪朝日新聞』1月7日

我が自主的建艦方針 希望あつて恐怖なし[「政局随想」]『大阪朝日新聞』1月8日

友邦支那の現状に何をなすべきか[「政局随想」]『東京朝日新聞』1月12日

国民の全能力総合 これ政治の使命[「政局随想」]『東京朝日新聞』1月14日

蒋介石氏と会談す『大阪毎日新聞』1月14～16日

支那漸く我を解す 外相捨身で臨め 排日鎮静は不可能ならず『大阪毎日新聞』1月17日

日支関係打開の方策を蒋介石と語る『ダイヤモンド』24-4、2月1日[1月20日座談会(於交詢社)：杉森孝次郎]

支那觀察者の報告を聴く『日本評論』11-3、3月1日[座談会(於日比谷陶々亭): 太田宇之助、大西斉、小島精一、杉森孝次郎、原勝、室伏高信]

無風帯圏に足踏みするもの[「新内閣批判」]『ダイヤモンド』24-8、3月11日

動乱の後に来るもの 国家改造の強化へ『早稲田大学新聞』32、3月11日

時論『我観』14-4、4月1日【広田内閣に対する社会的肯定、無風帯は変化を誘致す、『全く新しい真の政権』】

非常時青年の修養『済美』<水海道中学校済美会>26、4月15日

*興国の烽火『皇国運動』1-1、4月

時論『我観』14-5、5月1日【強力政治は強権政治に非ず、国防問題、産業問題、農村問題、綜合統制経済とは何か、日本に立ちて国際を觀よ】

純情の朋満川君[「満川亀太郎氏の面影」]『月刊維新』3-6、6月1日

時論『東大陸』14-6、6月1日【議會に現はれたる肅軍方針、現状打開の針路、伊太利の対連盟策が与ふる示唆】

男児の文学[文責在記者「我観・日本文学」]『文芸懇話会』1-6、6月1日

時論『東大陸』14-7、7月1日【日英関係の複雑性とリース・ロス、対ソ軍事関係と外交関係、日本非常克服上の課題】

臨時議會と非常時政局の展望『東大陸』14-7、7月1日[座談会: 杉浦武雄、渡辺泰邦、三浦虎雄、小山亮、木村武雄、田中養達、三田村武夫、竹尾式、斉藤直幹、関山茂太郎]

内を觀よ、外を觀よ(中野正剛)『連合情報』1264、7月4日

時論『東大陸』14-8、8月1日【非常時国策の可能性と不可能性、文官任用令を撤廃せよ、統制機關よりは統制内閣、対支外交全面的落潮の諸因】

現代日本の環境『大倉高等商業学校東亞事情研究』19、9月1日

北支に於る川越大使の活躍とその効果[「論壇」]『経済情報』11-24、9月1日

国際政局を語る『東大陸』14-9、9月1日[座談会: 黒田礼二、富士辰馬、杉森孝次郎、中山優、大西斉、斉藤直幹]

人民戦線か国民戦線か『日本評論』11-9、9月1日[座談会: 阿部真之助、杉森孝次郎、大森義太郎、麻生久、風見章、石浜知行、板倉進、室伏高信]

現代日本の環境[8月17日(於神田一橋講堂)]『旬刊講演集』440、9月10日

時論『東大陸』14-10、10月1日【日支関係悪化の再認識、伝統外交の破滅、敵は蔡廷楷に非ず、「電力民有国営案」の奥に在るもの】[「日支関係悪化の再認識」は『日本は支那を如何する』収録]

支那をどうする?『都新聞』10月1~3日[(3)のみ]『新聞集成昭和編年史 昭和十一年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1979年)収録]

積極日本主義こそ革新諸政策の基調『東京朝日新聞』10月15日

*東亞外交の整調『新東洋』5-10、10月

時論『東大陸』14-11、11月1日【竜頭蛇尾の対支交渉、生産力増大を脅威するもの、行政機構改革の根本義、日本式パーベンの役割】[「竜頭蛇尾の対支交渉」は『日本は支那を如何する』収録]

抗日を支那はどうするか座談会『芸春秋』14-11、11月1日[座談会：大蔵公望、風見章、木村増太郎、佐藤安之助、高木陸郎、林久治郎、竹内夏積][清沢洌・室伏高信編『支那の知識』<時局知識シリーズ2>(青年書房、1937年8月12日)収録]

東洋大変革の渦『雄弁』27-11、11月1日

*革新諸政策の基調は積極大日本主義に在り『国論』3-11、11月

*竜頭蛇尾の対支交渉『新東洋』[5-11]、11月

*広田内閣の役割と官僚政治『新日本民論』11月

時論『東大陸』14-12、12月1日【対支交渉の全面的崩壊、ヒトラーの軍部統制を見よ、「民有国営」思想の行衛】[「対支交渉の全面的崩壊」は『日本は支那を如何する』収録]

対支外交再検討の秋『東京日日新聞』12月14～19日(『大阪毎日新聞』12月14～19日)[『日本は支那を如何する』収録]

『明日の政治』を語る『大阪朝日新聞』12月23～25、27～31日、1937年1月5～7、9、11～16日[明日の政治を語る『東京朝日新聞』12月23～25、27、29～31日、1937年1月3～9、11、12、14日][座談会：河上丈太郎、近衛文麿、佐々木惣一、建川美次、蠟山政道、鳩山一郎、松本蒸治、結城豊太郎、芳沢謙吉、齊藤隆夫]

1937(昭和12)年

大和民族への試練『九州日報』1月1日

時論『東大陸』15-1、1月1日【日独防共協定の波紋、蒋介石の遭難と日支関係】[「蒋介石の遭難と日支関係」は『日本は支那を如何する』収録]

「我等はかく戦ふ 第十七議会の仮想質問」『アサヒグラフ』28-5、1月27日

*対支外交の再検討の秋『新日本民論』1月

*極東より外来勢力を駆逐せよ『今日の知識』1月

革新勢力は前進する[「政変の核心を衝く」]『ダイヤモンド』25-4、2月1日

時論『東大陸』15-2、2月1日【政府、政党の攻防、外交叱責の角度、杜撰なる歴大予算、物価暴騰と生産力拡充工作の怠慢、電力飢饉を警戒、更に石炭飢饉をも警戒】

暫く放置せよ[「広田内閣の審判」]『改造』19-2、2月1日

人の欲する所は恋と名なり－徳富蘇峰翁文章報国五十年記念祝賀会に於て－[「卓上演説模範例」]『雄弁』28-3、3月1日

時論『東大陸』15-4、4月1日【林内閣の矛盾性、既成政党の外交認識、佐藤外相の弱態】

革新の動向促進[「戦ひに備ふる態勢」]『読売新聞』4月13日

時論『東大陸』15-5、5月1日【解散を繞る官僚内閣と既成政党、御用新党排撃、再解散は次の内閣で、東方会は斯く進む】

*弱体、佐藤外相と既成政党の外交認識『新東洋』6-5、5月

時論『東大陸』15-6、6月1日【再解散を繞る泥仕合と次の時代、社大党とその歴史的役割、空虚なる日英親善工作】[「空虚なる日英親善工作」は『日本は支那を如何する』収録]

内に革新常道樹立 外・日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望」]『東京朝日新聞』6月13日[日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望す」]『大阪朝日新聞』6月13日]

*国民大衆に懇ふ『時局』6月

政治と科学を語る『科学知識』17-7、7月1日[5月31日座談会：長谷川如是閑、蠟山政道、片山哲、石原純、斎藤隆夫、宮島幹之助、三宅驥一]

時論『東大陸』15-7、7月1日【革新常道への過程、革新実現の予備工作、日独協定の宿命的発展】

国際的環境より観たる日支関係[6月12日於神田一橋講堂]『旬刊講演集』471、7月30日

時論『東大陸』15-8、8月1日【不拡大方針か全面的強圧か、以夷制夷は不可能、媚態外交を清算せよ、強力外交の確立】[「強力外交の確立」は『日本は支那を如何する』収録]

国際環境より見たる日支問題『大倉高等商業学校東亜事情研究』<第13回講演集>特輯号、8月5日

増税を断行 支那軍閥を粉碎せよ『やまと新聞』8月9日

明朗東亜への道 欧米への支那の媚態 この迷夢打破が焦眉『日本読書新聞』17、8月15日

*媚態外交を清算せよ(上)『農民』8月15日

*革新常道樹立と日独提携の強化『新東洋』[6-8]、8月

時論『東大陸』15-9、9月1日【対支一撃の重大意義、『支那は第二のスペインか』—世界戦争への禍機、動乱支那を繞る日英蘇関係、革新発展への拍車】[『日本は支那を如何する』収録]

*日支問題の重大意義(上)『農民』9月12日

日支事変と国際正義『時潮』3-9、9月15日

支那事変と国際情勢[9月22日於早稲田大学大隈講堂]『講演』375、9月30日

時論『東大陸』15-10、10月1日【長期抗日の崩壊、外来勢力の没落、遣外使節絶対無用】[『日本は支那を如何する』収録]

日本は支那をどうするか『改造』19-11、10月10日

東亜政治の悲劇『文芸春秋』15-13[臨時増刊]、10月15日[『日本は支那を如何する』収録]

時論『東大陸』15-11、11月1日【参議制の責任、宣伝は大所よりせよ、外交上の警戒期】

*日独伊の提携を強化せよ『講演の友』11月下旬

私の崇拜する偉人 西郷隆盛先生『小学五年生』17-10、12月1日

出游に臨みて『東大陸』15-12、12月1日

動かす人秋山定輔を囲む座談会『日本評論』12-13、12月1日[出席者：小林一三、秋田清、下村宏、長島隆二]

媚態外交の清算と三国協定の強化 [11月11日中野氏独伊訪問壮行会於軍人会館]『講演』236、12月10日

*難局に立つ者の覚悟『躍進之日本』月日未詳、1912年10月～1913年11月頃

1938(昭和13)年

老英帝国を衝く—独伊訪問の途に上るに際して『現代』19-1、1月1日

媚英外交清算の秋『創造』8-1、1月1日

事変を徹底的に解決せよ『内外公論』17-1、1月1日

客窓に響き渡る日本躍進の足音[「国民に寄す 各国民使節」]『大阪毎日新聞』1月5日

疑ふな！直進せよ[「国民に寄す 各国民使節」]『大阪毎日新聞』1月6日

ムッソリーニ首相と語る『大阪毎日新聞』1月27、29、31日

日本に立ちて世界を観る[2月15日羅府新報社主催講演(於大和ホール)]『羅府新報』2月17～19、21～26、28日、3月2、3、5、7～10日

本社主催国民使節船中座談会『東京日日新聞』2月25～28日、3月1日[2月23日座談会(於龍田丸):大倉喜七郎、高石真五郎]

盟邦“独伊”を訪れて『都新聞』3月5～7日

独伊より帰りて日本国民に檄す[3月13日於日比谷公会堂]『講演』392、3月20日

大道を驚らに！談「青年のページ」『新愛知』3月22、24、25、27、29、30日

ヒトラーとムッソリーニ『改造』20-4、4月1日

新時代の弁論『大日本青年』1-1～4、4月1、15日、5月1、15日

国民よ起て、一独伊より帰りて一『東大陸』16-4、4月1日

わが報告書『日本評論』13-5、4月1日

現状打破勢力としての独伊『文芸春秋』16-6、4月1日

独伊の印象[「海外見聞記」]『ラヂオ講演講座』32、4月5日

ベルリンローマ東京枢軸に立脚して[4月4日講演於大阪中央会堂]『講演時報』15-11、4月15日

*独伊を訪ねて『講演の友』4月下旬

日本の進み行く道 ヒットラー、ムッソリーニの両雄に防共の決意を叩く『家の光』14-5、5月1日

独・伊両巨人との会見記『現代』19-5、5月1日

日本青年よ真直に行け一独・伊を訪問して一『向上』32-5、6、5月1日、6月1日

革新政治の第一目標 何よりも眼前の時艱を克服せよ[「革新日本の歴史的使命」]『中央公論』53-5、5月1日

時論『東大陸』16-5、5月1日【伊太利使節を迎へて、政治的指導と英雄的気魂、英独伊関係と日本】

支那の単独管理に進め[「長期戦争か短期断行か」]『日本評論』13-6、5月1日

ムッソリーニ首相とヒトラー総統を語る『日の出』7-5、5月1日

祖国日本よ怖れず進め！一独・伊訪問より帰りて[3月13日於帰朝報告演説会]『雄弁』29-5、5月1日

現下の独逸を語る『龍門雑誌』596～598、5月25日、6月25日、7月25日

民族の持ち味[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』5月30日[黒田重吉編『時局百眼』(秋豊園出版部、1939年)収録]

時論『東大陸』16-6、6月1日【革新政治と新政党、自主外交を確立せよ、英伊協調と独伊の立場】

*支那の単独管理に進め『時局ニュース』6月5日

伊太利・独逸より帰りて[4月15日講演(於海軍館)]『有終』25-6、6月5日

日独提携の強化へ[「近衛内閣に要望す」]『大阪朝日新聞』6月13日

難局に立つ者の覚悟 ムツソリーニ首相より日本青年への言葉 立迷ふなかれ真直ぐに行け!『画報躍進之日本』3-6、6月14日

明治変革期の英雄を語る『大陸』1-2、7月1日[5月12日座談会(於山水楼):佐々弘雄、徳富蘇峰、木村毅、杉山平助、藤井甚太郎、山本実彦]

時論『東大陸』16-7、7月1日【近衛内閣の更生と対支問題、フランコ軍の英国船撃沈、政友会の内訌、無産党の自壊声明】

事変一年に際して中野正剛氏に戦時外交の今後を訊く[インタビュー]『ダイヤモンド』26-20、7月11日

和平への唯一通路[7月11日講演於日比谷公会堂]『講演』404、7月20日

英国恐るゝに足らず[7月11日講演於日比谷公会堂]『講演時報』15-21、7月25日

和平と西沙島問題 宇垣外相の媚英的態度を駁す[「時評」]『時局月報』11-8、8月1日

[国雄生「和平の形式に就て一問一答」中の上記評論に関する一問一答録]『時局月報』11-8、8月1日

長期戦を戦ひ抜け!『大陸』1-3、8月1日[座談会:尾崎秀実、杉森孝次郎、古野伊之助、広瀬久忠、山之内二郎、平貞蔵]

*大陸の長期経営『大陸日本』8月1日

対外国策を強化せよ[「対外強硬国策の提唱」]『東大陸』16-8、8月1日

大陸の長期経営[「大陸経営の諸問題」]『日本評論』13-9、8月1日

事変解決の途と第三国『文芸春秋』16-13、8月1日

外交強化と大東亜建設[文責在記者]『都市と農村』9-8、8月15日

事変下の国民精神[8月10日AK放送]『ラヂオ講演講座』46、8月25日

時論『東大陸』16-9、9月1日【東亜の雰囲気を制圧せよ—八月六日ラヂオ放送、張鼓峰事件と宇垣外交の失態】

宇垣外相に与ふ[「漢口攻略以後」]『日本評論』13-10、9月1日

対英媚態外交を戒む『文芸春秋』16-16[時局増刊12]、9月10日

*極東外交を制圧せよ『時潮』4-9、9月

*第三国の干渉を制限すべし『国策研究』9月

日本外交の指導原理[「全体主義政策特輯」]『東大陸』16-10、10月1日

英国の極東退陣を予約す わが広東攻略論の勝利とその意義『国策研究』9-11、11月1日

時論『東大陸』16-11、11月1日【日支事変外交観の跋、日本の出兵これより始まる、チエツコ問題の解決】

更に海南島へ—武漢攻略後に展開する第三国関係—[「武漢攻略後の内外情勢」]『時局月報』11-12、11月5日

禍根・“租界”を絶て 新政支那当然の権利[「長期建設に乗出す」]『東京朝日新聞』11月16日[「長期建設への途」(東京朝日新聞発行所、1938年)収録]

東亜の禍根一掃 援蔣各国に差別待遇は必然【「長期建設に乗出す」】『大阪朝日新聞』11月16日

世界新秩序の建設と勝利者日本の外交『いのち』6-12、12月1日

時論『東大陸』16-12、12月1日【支那には友邦として、列国には戦勝国として、南海行】

近頃の新政運動【「政界だより」】『時局月報』11-13、12月20日

*新支那の建設に当れ『商工之日本』12月

1939(昭和14)年

野より映画界へ【談】『映画朝日』16-1、1月1日

長期建設の指導原理—青年教師諸君に告ぐ—【「論説」】『教育研究』492、1月1日

聖戦第三年を迎へてこれからの日本これからの支那を語る座談会『青年』24-1、1月1日【出席者：内ヶ崎作三郎、久保田久晴、松本忠雄、小平権一、伍堂卓雄、白鳥敏夫】

誠意!! 勇氣!!【「青年に望む第一要件」】『青年』24-1、1月1日

時論『東大陸』17-1、1月1日【「国民再編成」の悲喜劇、東方会と国民運動、対米媚態と第三国依存を止めよ、ソ連敢て日本を愚弄するか】

ヒトラー総統を語る『雄弁』30-1、1月1日

遠く想ひを戦線に馳す『九州日報』1月2日

時論『東大陸』17-2、2月1日【日支事変処理要綱、遠く想を戦線に馳す】

声明書【記事「けふ結党に着手 社大・東方合同声明」中の社会大衆党執行委員長安部磯雄との共同声明】『東京朝日新聞』2月10日

事変解決の国民的指標【1月20日(於東方会大会)】『講演』425、2月20日

満天下の同志諸君に告ぐ『東大陸』17-3、3月1日

時論『東大陸』17-3、3月1日【東方会の発展的進出、東方会第一回全国大会に臨みて】

議論よりも行動【「東方会社大党懇親会挨拶」】『東大陸』17-3、3月1日

国際情勢と日支事変【「講演」】『教育研究』495、4月1日

東方・社大の合同と国内革新を中野正剛氏に訊く【香田九郎によるインタビュー】『話』7-4、4月1日

東方会は邁進する【「時論」】『東大陸』17-4、4月1日

*長期建設の指導原理と青年教師『学習指導』4月？

対支国策の根幹を論ず『改造』21-5、5月1日

時論『東大陸』17-5、5月1日【米国大統領の平和宣伝譜、日・独・伊枢軸と英米仏、急速効果的解決策とは？】

国民運動の方向を語る 中野正剛氏に註文する座談会『講演』433、5月10日【4月19日新日本文化の会主催座談会(於虎ノ門晩翠館)：倉田百三、藤沢親雄、尾崎士郎、林房雄、津久井龍雄、藤田徳太郎、保田与重郎、佐藤春夫、三宅雪嶺、中河与一、大木惇夫、岡山巖、難波田春夫、杉森孝次郎、富沢有為男、斉藤直幹、佐藤吉熊】

時局雑感『経済情報 政経篇』14-12、5月10日

日独伊軍事同盟論一支那事変の收拾策『加州毎日新聞』5月21～29、31日、6月1日

断乎わが動向を決せよ[講演速記、文責在記者]『旬刊時事特輯』24、6月1日

中野正剛氏を囲み東亜新事態を語る座談会『新天地』19-6、6月1日[座談会：長守善、中橋壽郎、下條英男、市川正義、武藤潔、千葉良一郎、青木了一、稻嶺一郎]

時論『東大陸』17-6、6月1日【日本は何れに向ふか、交戦権の遂行と租界処分の断行、厦門入港の英米陸戦隊】

日独伊軍事同盟論一支那事変の收拾策『話』7-6、6月1日

新日本の進路『大阪時事新報』6月10～14日

日本の動向を決定せよ[6月2日於日本青年館]『旬刊講演集』536、6月10日

租界問題と対英外交批判[「急迫せる租界問題」]『ダイヤモンド』27-18、6月21日

日本の動向を決定せよ[6月2日於日本青年館]『講演』438、6月30日

日本外交の大道『革新』2-7、7月1日

全支の租界を撤収すべし[文責在記者]『国策研究』10-7、7月1日

日本の動向を決定せよ『事業之日本』18-7、7月1日

日本よまっすぐに[談]『実業之日本』42-13、7月1日

日独伊三国同盟と事変処理『中央公論』54-7、7月1日

日本の動向を決定せよ[「時論」]『東大陸』17-7、7月1日

事変二周年外交批判『日本評論』14-7、7月1日

*日独伊軍事同盟に邁進せよ『講演の友』7月上旬

東京会談を監視せよ[文責在記者]『旬刊時事特輯』28、7月21日

聖戦貫徹外交と三国軍事同盟『革新』2-8、8月1日

時論『東大陸』17-8、8月1日【ヂエスチユアより度胸、先づ一撃を加へよ、三国軍事同盟を重視せよ、吾等赤露を怖れず】

日本は断乎邁進すべし[6月2日於青山青年会館]『雄弁』30-8、8月1日

日英会談の真相を衝く[7月31日於日比谷公会堂]『講演』442、8月10日

亜細亜民族の蜂起 東京会談を嗤ふ『旬刊時事特輯』30、8月11日

事変と国際情勢[8月5日AK放送]『ラヂオ講演講座』82、8月25日

*租界問題の解決に当り断乎交戦を行使せよ『商工之日本』8月

*日本の動向を決定せよ『官界情報』8月、10月

事変解決の近道『実業之日本』42-17、9月1日

*老獺英国を撃つ『創造』9-9、9月1日

反英運動と軍事同盟『東大陸』17-9、9月1日

東亜干渉者退場せよ[「欧州動乱と日本の立場」]『読売新聞』9月6日

独ソ不可侵条約と日本『文芸春秋』17-18[時局増刊24]、9月10日
ヨーロッパ戦局と日本の世界政策[「大戦に処すべき日本の態度」]『ダイヤモンド』27-27、9月11日
日本の進路は変わらず『旬刊時事特輯』35、10月1日
大日本不動の大方針『東大陸』17-10、10月1日
欧州戦乱に直面する日本外交『文芸春秋』17-19、10月1日[9月8日座談会：鹿島守之助、横田喜三郎]
日本に立ちて世界の風雲を見よ『中央公論』54-11、10月10日
世界の雰囲気は制せよ『公論』2-9、11月1日
打倒英国!! 日本参戦座談会『実業之世界』36-11、11月1日[座談会：加藤重雄、下位春吉、匠瑛胤次、橋本欣五郎、堀切善兵衛、ポーラスビハリ、野依秀市]
時論『東大陸』17-11、11月1日【政治的特権租界の晩秋、日本国民の魂を掴め】
禍根・“租界”を絶て 新生支那当然の権利[「長期戦説に乗出す」]『東京朝日新聞』11月18日
英米対策・独ソ対策をどうする『東洋経済新報』1898、11月25日[11月13日座談会(於東洋経済新報社楼上)：植原悦二郎、水野伊太郎、蛭山政道、杉森孝次郎、鹿島守之助、茅原崑山、石橋湛山]
期望於汪精衛先生(二)『華文大阪毎日』2-27、12月1日
時論『東大陸』17-12、12月1日【ノモンハン肉弾に感謝、元寇の国難と日本非常時、自信に立ちて米国を見よ、自信に立ちて蘇連を見よ】

1940(昭和15)年

試すべき腕の力 日本興廢の岐路 紀元二千六百年『九州日報』1月1日
事変処理の根本策『実業之世界』37-1、1月1日
官僚外交の欠陥を衝く『創造』10-1、1月1日
時論『東大陸』18-1、1月1日【恵まれたる非常時、幻影の脅威と日米関係、対蘇外交に大鉦を振へ、政治的指導力は誰が把るか】
非常時昂進に直面して『都新聞』1月5～7日
*支那新中央政權に要望す『新東洋』9-1、1月
対英米媚態成功の見込なし[「米内内閣と輿論」]『改造』22-2、2月1日
時論『東大陸』18-2、2月1日【米内々閣と英米の歓迎、媚態は逆効果を招請す、米内々閣行動の限度、財政経済物資政策の非常性】
世界の情勢と日本の進路[11月2日於東京淀橋公会堂]『雄弁』31-2、2月1日
敗戦主義を打破せよ[1月21日於東方会第2回大会]『講演』460、2月10日
時論『東大陸』18-3、3月1日【媚態は重圧を招く、浅間丸事件の意義、米内々閣の無抵抗主義、対蘇会談の決裂、関西より九州へ】
事変解決と国内革新『旬刊時事特輯』51、3月11日
時論『東大陸』18-4、4月1日【政治能力の薄弱性、『米内』『阿部』『有田』『佐藤』『斎藤』問題、日本マンネリズムの制約】

日本マンネリズムの悲哀 内外の形勢切迫と政治の貧困『旬刊時事特輯』53、4月11日

欧州大戦と強硬外交『改造』22-9、4月30日[4月17日座談会(於星ヶ丘茶寮)：白鳥敏夫、関根郡平]

時論『東大陸』18-5、5月1日【第二次大戦の進展に表はれたる総力戦と政治的指導力、蘭領南洋問題に先手を打て】

時論『東大陸』18-6、6月1日【独乙軍絶対優勢と我当局者認識の再検討、新秩序建設原理の徹底観】

“近衛公の希望は国民的基礎の新党” きょう会見の中野正剛氏語る[談]『大阪朝日新聞[夕刊]』6月9日

今！日本の開き直る時『旬刊時事特輯』60、6月21日

永遠の熱血青年 東方会会長中野正剛氏と語る[田村生 による訪問インタビュー]『実業之世界』37-7、7月1日

時論『東大陸』18-7、7月1日【英国は裏切る、支那は期待する、米国は打算する、日本は傍観するか】

『世界の変局に際し同胞に懇ふ』座談会『現地報告』34、7月10日[6月9日座談会(於星岡茶寮)：末次信正、建川美次、橋本欣五郎、松本徳明、来間恭]

世界の大変局と日本の進路[7月2日於日本青年館]『講演』476、7月20日

新体制と外交政策の指向[文責在記者]『国策研究』11-8、8月1日

時論『東大陸』18-8、8月1日【新政治体制の試練、国策転換とは？】

新体制推進座談会『新愛知』8月17～31日、9月1、2日[出席者：林房雄、橋本欣五郎、本位田祥男、小原正樹、亀井貫一郎、竹本孫一、永井柳太郎(紙上参加)、中野登美雄(紙上参加)、内田繁隆、松本徳明、広瀬豊作、平野学、千石興太郎]

*千載の好機を逸する勿れ『講演の友』8月下旬

時論『東大陸』18-9、9月1日【強力新体制の綱領】

英独決戦後の世界政治経済と我が対策を語る『東洋経済新報』1937、9月7日[座談会：横田実、高橋亀吉、田村幸策、山崎靖純、出井盛之、内山徳治、根津知好]

新体制への私の注文『旬刊時事特輯』69、9月21日

新体制は先づ行動より一その行動を蘭印略取によつて示せ『講演時報』597、9月25日

三国同盟の世界史的性格 国民的感情の結晶 他力本願は厳に戒慎『大阪毎日新聞』10月1日

対談中野正剛橋本欣五郎『公論』3-10、10月1日[9月4日対談：橋本欣五郎]

時論『東大陸』18-10、10月1日【新体制の天王山と蘭印問題】

日独伊三国同盟と日本の動向[10月10日於日比谷公会堂]『講演』485、10月20日

日独伊同盟の意義『独逸事情』9-11、10月25日

議會新体制座談会『都新聞』10月26～29、31日、11月1～3日[座談会：有馬頼寧、大蔵公望、河上丈太郎、清瀬一郎、杉村章三郎、中野登美雄、堀切善次郎、前田米蔵]

時論『東大陸』18-11、11月1日【三国同盟の成果を確保せよ、新体制と国民運動】

新体制に就いて『皇橋』1-1、11月1日

新体制下の経済再編成『中外商業新報』11月4日

経済革新の根本理念[「時評」]『東洋経済新報』1946、11月9日

時論『東大陸』18-12、12月1日【雄大なる構想より緊急なる実行へ、官僚人民戦線か国民全体主義か、経済革新基本要綱】

中野正剛氏を囲んで各大学生がものを訊く会『雄弁』31-12、12月1日[10月24日出席者：木田長次郎、鎌田三幸、武田信男、今井正之、川島利雄、森田善二郎、諸橋捨松、大津正永、土井一之、鈴木正博]

三国同盟と新体制『ラヂオ講演講座』123、12月1日

経済革新基本要綱『全ハガネ商聯盟会報』2-12、12月10日

*[未詳]『新国民』12月

1941(昭和16)年

時局下に於ける国民の覚悟—東京府歯科医師会主催時局講演会に於いて—[「苑説」、文責在記者]『歯科公報』2-1、1月1日

時論『東大陸』19-1、1月1日【大政翼賛実践綱領、揺がぬ大東亜共栄圏】

歴史的な意義 世界新秩序建設に処する覚悟[「臣道実践の指標」]『京都日出新聞』1月4日

押せば開く難関 大政翼賛の歴史的意義[談]『北国毎日新聞』1月4日

大政翼賛の歴史的意義『九州日報』1月5日

大政翼賛の歴史的意義『九州日日新聞』1月5日

大政翼賛の歴史的意義『台湾日日新報』1月5日

転換期日本の指標[1940年12月12日紀元二千六百年創立十五周年記念記念大講演会於共立講堂]『講演』493、1月10日

大島大使の行を壮して[1月15日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』593、1月30日

時論『東大陸』19-2、2月1日【非常時警報に驚く勿れ、難局に処して積極的なれ、国論何ぞ起らざる】

*日本の政治的対米神経『時潮』7-2、2月15日

高度政治は金銭によりて購はれず—我等の決意を遮る嶮路なし—『経済市場』12-3、3月1日

時論『東大陸』19-3、3月1日【戦勝要素としての政治指導力、帝国議会と大政翼賛会、日本は声明し、英米は行動す】

三国同盟の威力を發揮せよ[1月15日大島駐独大使壮行会於日比谷公会堂][「太平洋問題特輯」]『雄弁』32-3、3月1日

時論『東大陸』19-4、4月1日【挙国一致の積極性を高調す、大政翼賛会を去るの辞、神機を捉ふる者は勝つ、日本精神を官僚化する勿れ、非理法權天】

松岡外相を鞭撻す『改造』23-8、4月2日

現下日本の政治経済の針路[3月22日講演速記大要於経済情報社主催時局政経懇話会]『経済情報 政経篇』16-5、4月10日

*われらの決意は固し『時潮』7-4、4月15日

嵐に立つ日本の政治戦略[3月25日於日本青年館]『講演』503、4月20日

時論『東大陸』19-5、5月1日【日ソ中立条約の活用、構想と体制と運営、大政翼賛と行政翼賛】

大東亜建設への道『市町村雑誌』569、5月15日

若き精神力[「日曜随想」]『都新聞[夕刊]』5月19日

国難打開の体当り[5月1日講演速記録、東方会主催難局突破国民有志大会於両国国技館]『東大陸』19-6、6月1日

剣をも支配するもの『時潮』7-6、6月15日

質問に答へて所懐を陳ぶ[「公開状 政治力強化の問題につき「革新政党」の所信をただす」への回答文]『新経済』1-4、6月15日

欧州大戦の将来と日本の前途『実業之世界』38-7、7月1日

日本の将来を論ず『ダイヤモンド』29-19、7月1日

時論『東大陸』19-7、7月1日【汪精衛声明の政治性、本多大使の政治性、松岡外相の対米観、独英両国の闘志】

飛躍日本の新構想を語る『陸軍画報』9-7、7月1日[座談会：尾崎士郎、沢畑養一郎、下中弥三郎、道家斎一郎、本社記者]

時論『東大陸』19-8、8月1日【第三次近衛内閣と人心復興、新田義貞の家訓】

*政治力強化の源泉『時局』8月

時論『東大陸』19-9、9月1日【英米両巨頭の共同宣言、極東問題と英米宣言、逐客兵填周池】

ルーズベルト、チャーチルに答へて日本国民に告ぐ[9月13日於日比谷公会堂]『旬刊講演集』617、9月30日

*ルーズヴェルト、チャーチルに答へて日本国民に告ぐ『講演の友』187、9月下旬

三国同盟一周年を迎へて『イタリヤ』1-7、10月1日

映画を観て感あり『映画之友』1-10、10月1日

ルーズヴェルト、チャーチルに答へて日本国民に告ぐ！『東大陸』19-10、10月1日

『三国同盟と大東亜建設』を語る『東洋経済新報』1941、10月5日[対談：杉森孝次郎]

読者に告ぐ『旬刊時事特輯』106、10月11日

質実剛健の青年こそ国運進展の推進力だ[「これを青年に望む」]『大日本青年』4-20、10月15日

我国と緊迫せる国際情勢—帝国不動の態度を堅持せよ—『経済市場』12-11、11月1日

日本の正義『公論』4-11、11月1日

重ねて告ぐ『旬刊時事特輯』108、11月1日

時論[「近衛メッセージと米国の謀略」「復々奇蹟!独軍の進出」]『東大陸』19-11、11月1日

東条内閣を鞭撻して迅速的確の行動を要望す『改造』23-22<時局版24>、11月2日

明朗不動の政治を確立せよ『現地報告』50、11月10日[『世界維新の嵐に立つ』収録]

われら如何に処すべきか[11月13日談]『ダイヤモンド』29-33、11月21日

チャーチルのシュリーフェン計画に備へよ[「時論」]『東大陸』19-12、12月8日

勝呂中尉追弔の辞『東大陸』19-12、12月8日

戦ふ国民の覚悟『経済情報 政経篇』17-1、12月10日

*対日シュリフェン計画『時局月報』[14-12]、12月

1942(昭和17)年

此一戦『公論』5-1、1月1日[12月11日、徳富蘇峰との対談。『此一戦 国民は如何に戦ふべきか!』収録]

*大東亜戦争の目標『国策研究』13-1、1月1日

彼の戦略を粉碎せよ『新若人』2-10、1月1日

大東亜建設精神基調『東大陸』20-1、1月8日

一億火の玉と成つてぶつかろう 読者に告ぐ『旬刊時事特輯』115、1月21日

*大東亜圏建設の指標『時潮』8-2、2月

*ルーズヴェルト・チャーチルに三度提言す『日本』2月

大東亜戦争下の東方会運動『東大陸』20-2、3、2月8日、3月8日[『戦争に勝つ政治』と改題、同年3月刊]

大東亜戦完遂と翼賛選挙『報知新聞』3月6~9日[座談会：橋本欣五郎、挟間茂、里見岸雄、吉村正、穂積七郎]

大東亜建設座談会『朝日新聞』3月19~24、26、27日[3月17日座談会：蟬山政道、大蔵公望、岡田菊三郎、芳沢謙吉、中山伊知郎、久原房之助、藤原銀次郎、平出英夫]

指導者の性格とは何か『新若人』3-1、4月1日[座談会：橋本欣五郎、道家齊一郎、駒井徳三、赤松克麿、赤尾好夫、池田佐次馬]

総選挙と東方会『東大陸』20-4、4月8日

*新欧州の指導者ヒトラーの印象『時潮』8-4、4月

*政治以上の政治『創造』12-6、5月1日

凝集せよ政治力[「新しき会議 紙上登壇」]『東京朝日新聞』5月4日

大閣秀吉[「日本外史講義」]『東大陸』20-5、5月8日

時論『東大陸』20-6、6月8日【大同に就く東方会、思想結社としての東方会、電光影裏春風を斬る、客観下の東方会】

本然の支那に還れ[「大東亜諸民族への公開状」]『東京朝日新聞』6月25、26日

今後の対支方策『都新聞[夕刊]』7月1~8日[座談会：有田八郎、河田烈、近藤英次郎、松井石根、谷萩那華雄]

時論『東大陸』20-7、7月8日【日本青年に苦言す、日支関係の新環境】

*日本青年に与ふ『時潮』8-7、7月

時論『東大陸』20-8、8月8日【思想結社東方同志会、思想の苗床に通風せよ、国民思想を武装せよ】

時論『東大陸』20-9、9月8日【青年と錬成、国民思想の硬直、西郷と明治維新、新民権運動とは、長期戦の限界性、東条首相と親心、印度の独立と第二戦線、必勝国体々制の確立】

時論『東大陸』20-10、10月8日【長期戦と和平謀略、勝つ国と負ける国の形相、一大猛省——大躍進】

草莽の赤誠を皇道政治に顕現して大東亜建設のために挺身せよ『世界知識』15-10、10月10日

時論『東大陸』20-11、11月8日【「長期戦」を検討せよ、当局者の精神論、農村の詩】

天下一人を以て興る[11月10日(於早稲田大学大隈講堂)]『東大陸』20-12、21-1、12月8日、**1943年**1月8日[弓狩匡純『日本人の誇りを呼び覚ます魂のスピーチ』(廣濟堂出版 2014年)抄録]

日・独・伊盟約一周年に寄す『東京新聞』12月11日

決戦政治の確立『朝日新聞』12月17～20、22日[12月16日座談会(於朝日新聞社): 田畑長茂、前田米蔵、山崎達之輔、矢部貞治、中島弥団次、橋本清之助、相川勝六、田中長義、三輪寿壯、津雲国利、小平権一、津久井龍雄]

全銃後結束して長期戦に勝利せよ『やまと新聞』12月9日

1943(昭和18)年

戦時宰相論『朝日新聞』1月1日[マイクロ版で確認、縮刷版は削除後の代替記事掲載]

*長期戦を検討す『国策研究』14-1、1月1日

時論『東大陸』21-2、2月8日【天下は一に帰せん、法三章とその環境、孔明の宣撫工作】

ルーズヴェルトに应对す『東京新聞』2月25、26日

賤ヶ嶽の秀吉『維新公論』7-3、3月8日

ルーズヴェルト大統領に应对す[「時論」]『東大陸』21-3、3月8日

時論『東大陸』21-4、4月8日【颯爽たるヒツトラア総統、真直ぐに行け】

建武中興—後醍醐天皇諸篇—[「日本外史講義」]『東大陸』21-5、5月8日

時論『東大陸』21-6、6月8日【元帥死して余烈あり、陣頭指揮の真意義、世界全戦線の小康と外交の胎動、必勝陣の根柢】

*隣れむべし米国の狂態『北方日本』6月

難局日本と青年学徒の道[6月2日講演於修猷館]『東大陸』21-7、7月8日

時論『東大陸』21-8、8月8日【ムッソリーニの退場を繞る伊太利情勢、東方同志会員に告ぐ】

時論『東大陸』21-9、9月8日【元寇撃滅の教訓、大死一番の必勝陣】

時論『東大陸』21-10、10月8日【徴兵猶予よりの解放、家門の名誉と滅^{ママ}死奉公】

1944(昭和19)年

建武中興(遺稿)『我観』1-3～6、2-1、3、9月5日、10月5日、11月5日、12月5日、**1945年**1月5日、3月5日[2-1、3は、未見]

4. 帝国議会衆議院演説

* 『官報号外 衆議院議事速記録』は、『官報号外』と略記した。

第 43 特別議会(1920 年 7 月 1 日～28 日)

決議案(尼港問題に関する特別委員会設置)提出の理由説明、7 月 9 日『官報号外』7、1920 年 7 月 10 日

第 44 回通常議会(1920 年 12 月 27 日～1921 年 3 月 26 日)

台湾に施行すべき法令に関する法律案への質問、1 月 29 日『官報号外』8、1921 年 1 月 30 日

対露政策に関する決議案の提出理由の説明、2 月 5 日『官報号外』11、1921 年 2 月 6 日[「西伯利撤兵論」と題して『国民に訴ふ』収録]

決議案(朝鮮統治に関する調査委員会設置の件)提出理由の説明及び質問への答弁、2 月 25 日『官報号外』19、1921 年 2 月 26 日

第 45 通常議会(1921 年 12 月 26 日～1922 年 3 月 25 日)

衆議院規則中改正案への質問、10 月 27 日『官報号外』2、1921 年 10 月 28 日

国務大臣の演説に対する質問、1 月 25 日『官報号外』6、1922 年 1 月 26 日

決議案(ワシントン会議の経過に関する件)提出の理由説明、2 月 18 日『官報号外』14、1922 年 2 月 19 日

漢学振興に関する建議案について質問、3 月 6 日『官報号外』23、1922 年 3 月 7 日

第 46 回通常議会(1922 年 12 月 27 日～1923 年 3 月 26 日)

国務大臣の演説に対する質問演説、1 月 24 日『官報号外』4、1923 年 1 月 25 日

武器問題について質問『予算委員会議録(速記)』5、6、1923 年 1 月 31 日、2 月 1 日

日支郵便約定問題の顛末を公開する決議案への賛成意見、2 月 3 日『官報号外』8、1923 年 2 月 4 日

ロシア政府承認決議の提出について説明、3 月 20 日『官報号外』35、1923 年 3 月 21 日

第 51 回通常議会(1925 年 12 月 26 日～1926 年 3 月 25 日)

政友会議員小川平吉・小泉策太郎・秋田清・鳩山一郎を査問委員会に付託する動議提出の理由説明および一身上の弁明、3 月 4 日『官報号外』24、1926 年 3 月 5 日

議員中野正剛君の行動に関する調査の件について弁明『衆議院議員梅田寛一君ノ行動ニ関スル調査ノ件他三件委員会議録(速記)』7、9、大正 15 年 3 月 20、24 日

第 53 回臨時議会(1927 年 5 月 4～8 日)

枢密院の奉答に関する決議案の提出理由の説明および質問への回答、5 月 7 日『官報号外』4、1927 年 5 月 8 日[「枢密院彈劾演説」と題して『国民に訴ふ』収録]

第 55 回特別議会(1928 年 4 月 23 日～5 月 6 日)

田中総理大臣に質問『予算委員会議録(速記)』6、5 月 4 日

内相の処決等に関する決議案の賛成演説、5 月 4 日『官報号外』7、1928 年 5 月 5 日

第 56 回通常議会(1928 年 12 月 26 日～1929 年 3 月 25 日)

満州某重大事件に関する質問、1 月 25、26、29 日『予算委員会議録(速記)』2、3、5、1929 年 1 月 25、26、29 日[「対支重大問題の一問一答」と題して『国民に訴ふ』収録]

第 58 回特別議会(1930 年 4 月 23 日～5 月 13 日)

政府委員(遞信政務次官)として答弁『船舶業組合法案外一件委員会議録(速記)』1、5 月 9 日

第 63 回臨時議会(1932 年 8 月 23 日～9 月 4 日)

時局匡救対策について質問、8 月 25 日『官報号外』3、1932 年 8 月 26 日

第 65 回通常議会(1933 年 12 月 26 日～1934 年 3 月 25 日)

齊藤内閣の時局認識に関する質問、1 月 25 日『官報号外』5、1934 年 1 月 26 日[「非常時の本質如何(齊藤内閣を難詰す)」と題して『第六十五回帝国議会代表雄弁集』(日本講演通信社、1934 年 3 月 21 日)、
「非常時は解消せず」と題して『中野正剛氏大演説集』収録]

第 66 回臨時議会(1934 年 11 月 28 日～12 月 9 日)

国務大臣の演説に対する質問、12 月 1 日『官報号外』4、1934 年 12 月 2 日

第 70 回通常議会(1936 年 12 月 26 日～1937 年 3 月 31 日)

林首相兼外相への質問、2 月 18 日『官報号外』8、1937 年 2 月 19 日

第 72 回臨時議会(1937 年 9 月 4～8 日)

日支戦争遂行方針について質問、9 月 5 日『官報号外』2、1937 年 9 月 6 日